

コニサドーし札幌 サポーターズ集会 2008



と き 2008年2月11日(月) 12:00~17:50

ところ 札幌コンベンションセンター「SORA」
107+108 連結会議室

< 開催概要 >

日 時：2008年2月11日（月）祝日
12：00～17：50（11：30開場、18：00閉会）

場 所：札幌コンベンションセンター「SORA」107+108連結会議室
（札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1）

参加者数：のべ 230名

来 賓：HFC代表取締役社長 児玉 芳明 様
同 専務取締役 佐藤 邦興 様
同 執行役員 村野 晋 様
同 執行役員営業本部長 渡辺 伸夫昭 様

報 道：例年通りの報道各社に連絡

主 催：「コンサドーレ札幌サポーターズ集会2008」運営有志
（齋藤孝、本間英忠、山崎徹、千葉一博、中川雅裕、平松一弘）

運営協力：< 会場係 >

平松一弘、久保雅計、松本明美、松本雅幸、渡辺恵子

< 記録係 >

後藤泰子、鎌田貴子、熊野亜希、

< 受付係 >

千葉一博、高森しずか、本間陽子、松村真由美、齋藤恭子、

< 進行 >

本間英忠、中川雅裕、

司会進行：齋藤孝

内 容：別紙議事録（要約）、プログラム参照

費 用：サポーターズ集会2008入出金報告参照

【コンサドーレ札幌 サポーターズ集会2008 公式議事録】

齋藤(以下司会): はい、それではお時間でございます。開会させていただくために後ろの扉を一旦お閉めください。それではサポーターズ集会2008を開催させていただきます。開催に先立ち主催者側を代表しまして一言お話をさせていただきます。まずは、毎年そうですが、足もとの悪いところを、また今年は雪まつり、それと連休の最終日に当たるにも関わらず、こんなにたくさんお越しいただきましてありがとうございます。昨年はJ1昇格とJ2優勝を味わって、スタジアムで一緒に涙したサポーターがここにお集まりですが、今年は新聞でも賑わしている話題がいろいろございます。7日間しかいなかった外国人もいたというようなこともある。逆を言えば、万事塞翁が馬で早い時点でいなくなっていたでよかったですかなという感覚もあります、その辺のチームの状況をうかがわせていただくということにお時間を割いていきたいと思います。途中、恒例の平川さん。つい昨日ですか一昨日ですか、グアムキャンプから取材で戻ってこられましたので、ものすごいレアな話が聞けるのかなと思っております。それと昨年も申し上げましたが、我々はスタジアムで手をたたいてサルトしてチームを鼓舞し応援するサポーターですが、今前にお座りいただいています北海道フットボールクラブの方々は実際に運営、資金繰り、そういった部分でご苦労なさってチームを支えると。広い意味で我々のお仲間でございますので、質問その他をされる場合も大人としての礼儀だけはわきまえたご発言をお願いしたい。あまりにも見苦しく礼を失するようなご発言に関しましては、主催者として途中で中断させていただく場合もあるかとは思います。決して相対する立場ではございませんので、その辺をご理解いただきたいということです。それと一部のサポーターから我々のHPの方にメールでアクセスがあったり、私個人の方にメールが入っていたんですが、北海道フットボールクラブ元常務取締役の門脇様にサポーターズクラブ、サポーターズ集会として感謝状を発行できないものかと。長きに渡り、いろいろとウイットに富んだお話で、サポーターとのいろいろな問題をやんわりとかわしていただいたという功績は大ではないかと。いろいろご提案はありましたけれども、感謝状という形は私共では今回遠慮させていただきました。冒頭にこの話をさせていただいて議事録にきちっと残りますので、サポーター全員が元常務門脇様のご功績に感謝申し上げているということを公式議事録に記録いたしまして、感謝とさせていただきたいと考えております。それでは、最後にスタッフの紹介をさせていただきます。名前の呼ばれたスタッフはその場でご起立ください。会場係リーダー、平松さん。サブリーダーの久保さん、松本明美さん、松本雅幸さん、渡辺恵子さん。記録係の後藤泰子さん、鎌田貴子さん、熊野亜希さん。受付のリーダー千葉さん、高森さん、松村さん、齋藤さん、本間陽子さん。進行は私齋藤と、右におります本間さん。音声の中川さん。それと今日は仕事の関係でいらっしやいませでした山崎さんご夫妻、徹さんと由里子さんも今回のプ

ログラム作成ですとか、お手伝いをいただきました。こういう数多くのサポーターの善意、ご労力で成り立たせていただいております。それでは早速本題に入って参ります。まず、ご来賓としてお越しいただいております株式会社北海道フットボールクラブ代表取締役社長、児玉社長よりご挨拶を頂戴いたします。

児玉社長(以下児玉): 皆さん、こんにちは。(会場「こんにちは」)もう一年経ってしまいました。去年ここでは針のむしろに座らされているような気持ちで、柳下監督、城福強化部長の契約をしないということがあって、皆様方にも大変ご心配をおかけしました。6年ぶりのJ1復帰、そしてJ2優勝ということで、この場に立たせていただいております。本当にありがとうございました。去年のシーズンを考えますといろんなことがございました。最終戦の12月1日のあの盛り上がり。2万8千90人の人達が抱き合い、涙し、そしてハイタッチして、あの瞬間を味わっていただきました。あのシーンがずっと続けばいいなぁーと今でも思っております。その前の愛媛戦では西君が決めてくれました。その前負けた鳥栖戦ではスタジアムに「北海道札幌」、そして上の方には「BORN IN SAPPORO, LIVE IN SAPPORO, DIE IN SAPPORO」と大きく書かれていました。サポーターの皆さんの熱い思いがあのフレーズに十分に込められていたというふうに思って、私はあのフレーズを北海道札幌市の幹部の人にも見せて、いかにコンサドーレのサポーターが熱い思いでアウェイを戦っているかということを申し上げた次第でございます。本当に皆さんのおかげでJ1に上がったというふうに思っております。改めまして、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。とは言っても、いろいろなことが山積しておりましたし、今もまだまだ未解決の問題が幾多もございます。昨年もここでご質問いただきました2008年問題、今年の問題です。様々なことをやってまいりましたけれども、ようやくとメドがたってまいりました。減増資計画、そして今後の自立した経営に向けてどういうふうに立ち向かっていけばいいのか、そういうような方向性もある程度見えてまいりました。私共はミッションとして4つのことを掲げております。まもなくHP上で公開いたしますけれども、コンサドーレ札幌北海道フットボールクラブの永続的な発展。これが第一でございます。そして第二は道民にとって常に重要な存在であり続けること。さらにコンサドーレの持っているブランド力、価値で社会の問題を解決するお手伝いをすること。そして4つめがスポーツ文化の創造。この4つを掲げて、私共は今年を新たな一歩と位置づけてやってまいります。どうか、ご支援いただければ大変ありがたいと思います。何に増してもやはり自立した経営、これが私共にとっては最大の課題であることは皆様方もご承知だと思います。新聞紙上でも様々な形で賑わしておりますけれども、Jリーグから課せられているJ1の昇格基準というのは、資本をいじる場合には1年間で債務超過を消せということが至上命題として私共に課せられております。いくつかの問題があります。詳しいことは後から専務の佐藤から申し上げますけれども、通常の損益の中から2億円の債務超過を消すということは大変難しい。2007

年度の私共の決算は、おおよそ600万円の黒字です。やっと黒字が出たという状況でございます。来年度1年間で2億円の黒字を出すということは、ほぼ不可能だと考えました。更に現在の26億円の資本金に対して新たな出資を求めて2億円を上澄みして、その2億円で債務超過を消すという方法もございますけれども、将来減資されるかもしれない株式を新たに2億円出資する方は今、目前にはいません。多分これからも出てこないだろうと思っております。最後に私共が選択したのは減資をして増資をするという方向です。多分皆様方も持株会の会員でいらっしゃると思います。現在80%減資を考えておりますので、5万円の株券が1万円に減価してしまう、減ってしまうということについては大変申し訳ないと思っておりますけれども、これをやることによって現在ある27億円の債務をおおよそ7億円まで減らすことができます。そして手を上げていただけて新しい出資者がおりますので、おおよそ3億円の出資ができるというふうに見ております。このことによりまして債務超過は消せるというふうに考えて、その方向を探ってきたんです。道庁それから札幌市は1億5千万つつの出資をいただいています。80%減資ということになりますと1億2千万円が消えてしまうということで、税金の無駄使いという結果にもなりかねません。なると思います。そういうところから、道も札幌市も減資については相当厳しい批判と慎重な態度で臨んで参りました。これに対して、私共はコンサドーレを残すため、そして道民の財産を生かしていくためには減資がやむを得ないんだということ。そして今後の経営計画をきちんと出す、社会貢献活動も一層進めるということをお約束して、おおよそ札幌市と道庁のご了解を得ることができました。まだ予算委員会、本会議という場面はありますが、大体その方向性が見えてきた。5月中旬あるいは5月末までには払い込みが終わって、何らかの形でこの問題に決着がつくだろうと、こんなふうに思っております。減増資ができたからといって将来必ずしも安定とはいえませんが、2008年はクリアできたかも知れませんが、今後の問題についてはまだまだ厳しい道のりだというふうに思っております。ただ幸いにニトリさんが胸のスポンサーについていただきました。そして力強いメッセージを私共にいただいています。1週間ほど前に、東京でニトリさんの新年度の計画と決算の発表、おおよそ900人の幹部社員を集めて会合が開かれました。この席に私もお招きを受けて行ってきましたけれども、広い会場にはコンサドーレのレプリカが各所に張られ、旗が張られ、そしてDVDが流されておりました。900人近い幹部の方々、そして似鳥社長が「みんなでレプリカを買おう!」、そして「ファンクラブ・後援会に入ろう!」「みんなでコンサドーレを応援するんだ!それが北海道を応援することに繋がる!」という力強いメッセージをいただきました。更にニトリさんはおおよそ8000人の従業員、プラス様々な形を入れますと3万人の関係者がいらっしゃる。ここを中心にして核を作るというふうに言っております。これから私共はニトリさんそしてその他のスポンサーの皆さんと手を組みながら新しいコンサドーレ、今年から始まる新しい一歩を支えていきたい、作り上げていきたいと思っております。具体的な方策は色々ございます。例えば今考えているのは10万人計画。

サポーター10万人を集めよう、みんなで10万人の組織を作ろうと。そういうことによって固定的な収益、収入を見込むんだと。成績が悪い時は収入が落ちてしまいます。去年は幸いに、最終戦とその前の試合でおおよそ6万人の方々が入場していただいた。この2試合で4千数百万円の利益を得ることができました。やはりお客さんが入ると収入が増えるです。これをどうやって今後も永続的に増やしていくのか、この方策を私共はいろいろと考えていきたい。こんなふうに思っております。そのひとつが10万人計画であり、そしてこれをCRM、サポーターに対する様々なサービスをすることによって情報を一元化して観客の動員につなげたい。そしてグッズの販売など、様々な形につなげていきたい。そういうふうに思っております。10万人の仲間が出来れば、コンサドーレは永続的に発展していくというふうに私は思っております。また社会貢献活動はここ数年、コンサドーレは一生懸命やってきました。例えばサッカースクール。去年1年間でドーレくんが幼稚園、保育所を回った回数は60回。そのほかサッカー教室。様々な形でサッカーの普及をやっています。また食育の教室。ホクレンさらにJAグループと一緒に食べて食べることの大切さを教えるということをサッカー教室と一緒にやってきました。食育をやるということは日本の農業を守ること。そして北海道の農業を守ること。北海道の農業を守るとは環境を守ることだと言いながら、農業団体、教育大学と三者で進めております。これももっともっと進めて参りたい、そういうふうに思います。今年からは夢先生(ユメセン)「JFAこころのプロジェクト」もやります。小学校の中に入って行って、みんなと一緒に夢を語ろうと。今、様々な問題が起きている子供達の社会の中でコンサドーレがどういうことができるか、果たせるかということをやってまいりたい。去年から始めました介護予防教室も大変好評でした。これもこれからの元気なシニアをより一層元気にするために進めて行きたい。コンサドーレの周辺にある社会を私共の力で、様々な形で解決していきたい。より良い方向にコンサドーレの力を生かしていきたい。こんなふうに思っております。J1への戦いは大変厳しいかもしれませんが。後から村野からご説明させますけれども、私は絶対にコンサドーレは戦っていけるというふうに思っておりますし、先ほどJ1で優勝という声もございました。5年後にはカップ戦で優勝、そして10年後には常に優勝を戦えるチームに育て上げていくということを、私共はミッションとして考えていきたいと思っております。細かいことは佐藤、村野、渡辺の方からご説明いたします。何なりとご質問いただいて、お互いに手を取り合ってコンサドーレを支えていきたいと思っております。最後になりましたけれども、私共の紹介をさせていただきます。皆様方の向かって左側から専務の佐藤でございます。(会場拍手) 今年新設いたしましたゼネラルマネージャー(GM)、統括本部長の村野でございます。(会場拍手) それと営業本部長の渡辺でございます。(会場拍手) その他HFCの各部長が全て来ておりますので何なりとご質問していただければ。厳しい質問でも結構です。何でもお答えしたいと思いますので、よろしくお願いします。ちょっと長くなってしまいましたが、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。(会場拍手)

司会：ありがとうございました。それでは引き続き村野チーム統括兼管理部長から本年度のチームの体制、コンセプトについてお話を頂戴いたします。よろしくお願いいたします。

村野GM(以下村野)：皆さん、こんにちは。(会場「こんにちは」)今年もよろしくお願いいたします。本日は平川さんもいらっしゃっているということで、後ほどお話があると思うんですが、平川さんもお手柔らかにひとつお願いいたします。プログラムに書いてあります通り、今年のチーム体制、コンセプトについてHFC強化部担当と書いてあるんですが、強化部長の三上がグアムに行っております。私が上司に当たり責任者の一人ですので、お話を代わってさせていただきたいと思います。まずチーム体制ということでございますが、これはもうメディアで散々報道されております。外国人、新加入を含め32名だったんですけれども、先ほどあったように31名になってしまったという状況でございます。すみません。新聞の報道でもメディア等でもありましたアルセウ選手の退団ということでございます。彼を中心選手として、今年1年は是非がんばっていただきたいと期待していたんですけれど。彼の入団に関し、強化部長の方とも十分話しをして採用を決めたんですが、彼がキャンプに合流してから自分が思っていたことと現実のギャップがあまりにも離れているという申し入れがありました。私はグアムには行ってなかったんですけれど、監督とも三上とも毎日散々電話でやり取りをしまして、最終的に要は札幌でやっていくことについてモチベーションがないと、動機がないと。三上強化部長が最終的に判断した内容は「今苦労はしているけれども、君はこのチームで勝って、その時に嬉しいと考えられるか？」というような話。そのとき彼が「勝っても嬉しくない」と言ったんで、そういうことであればいてもしょうがないと判断をいたしました。我々のチームの過去の反省に基づいて、運営をするにあたってのひとつの考え、柱として持っているのがdiscipline(ディシプリー)、規律というものを非常に大切にしています。規律を守れない選手は、例えばセンターフォワードのすごい選手で規律が守れないけれども毎試合毎試合必ず点を取る。たまにはハットトリックしちゃうような選手は、中には規律を守れない選手もいます。私もディエゴ・マラドーナやジダンなどであればいいよと言おうかなとは思ったんですけれども、選手にもよりけり。彼一人のわがままのためにチームワークを乱すのはどうかっていうのは、こちらの判断であり責任でもあると思います。そういった意味を含めて、皆様の一番関心のあるところだと思いますので、質問で受けてから答えるよりも先にお話させていただきました。モチベーションがなければ、どんなにいい選手でも動かないわけですから。モチベーションがない選手に残ってくれというつもりもありませんし、他の選手はすべてモチベーションがあってみんなで戦うぞという中に、そういう選手がいてもいいことは全くないだろうという判断は、私個人として持っておりますし、私の責任で判断をしたという部分もあります。他の選手に対しても失礼ですし、一生懸命やっている仲間に対しても失礼だと思います。先ほど言いましたdisci

pline、規律。これはまだ発展途上のチーム、過去いろいろ規律がなかった関係で問題も起こしてきました。過去の反省に立って同じ過ちを繰り返さない。アクシデントというリスクマネジメント上そういうことは必ず起こるというのはあります。全くなくすということは不可能ですが同じような間違いを何べんも何べんも繰り返すようなことをしてはチームが発展しないと思います。これに基づいて今回はこういう判断をいたしました。今後のことなんですが、外国人選手を含めた補強については一人中心になるであろう選手がいなくなったわけですから、これをどのようにするか。シーズン当初の編成の考え方でアルセウ選手を入れた状況からキャンプも入りました。実際に採用した選手でチーム作りを見た時に、そこで現状を完全に把握して更にどういう形で補強したらいいのかというのは、強化の方と監督と十分相談して決めていこうと思います。申しわけないんですけど、具体的なことはここで申し上げると他チームのメリットになりますので、これくらいで勘弁させていただきたいと思います。今年のチーム目標というふうにプログラムに書かれております。長い眼でみた目標に基づいて今年も戦わなければいけない。TVが入っていますけれど、ここだけ取って報道しないようにしていただきたいんですが、J1で戦うチームの目標は最終的には全部優勝というのは間違いない。J2で戦っている以上はJ1に昇格することが目標ですし、J1で戦ってる以上は優勝することが目標であるということは間違いないと思うんです。だからJ1で優勝するというのが目標だということだけ報道しないでください。お願いします。(会場笑い) 勝つために戦うというのは、選手とか我々は当然の義務でありますし、勝つために戦わないのであれば意味がないんですね。ただし現実というものがございます。ここからは報道していただいても構わないですけど、(会場笑い) 戦力を現実に基づいてちゃんと分析し、我々が一体どの程度の力で相手がどの程度の力で、現実的にどこを目指せられるのか。全く力もないのに優勝しますって、これは絵に描いた餅にしかならない。5段階計画を作った時に、絵に描いた餅だというふうに言われたんですけどもまだ完成はしてない、それはどうでもいい話なんです。昨年J2で優勝しJ1昇格を決めましたけれども、戦力的にJ2で優勝できる戦力であったかどうか。私もはっきり優勝できる戦力じゃなかったと言えませんし、優勝できる戦力だったとも言えない。分らないです。ただし、強化費だけを見れば6番目か7番目だったということで、これは事実でございます。今年もJ1チームの中では恐らく最低クラスのクラブ。総予算もそうですし、強化費も当然そうでございます。だから勝たなくていい、だから最下位でいいんだとは全く考えておりません。お金がないから負けてもいいんだという話にはなりませんので。最善を尽くして相手の弱点を見つけながら我々の長所を伸ばして、何が何でも石にしがみついても残留するんだというのが具体的な我々の目標でございます。先ほどの話にも触れるんですが、今年採用した選手は非常に可能性のあるというか、伸びしろの可能性があるんですけども、若くて優秀、能力が高く、将来的に伸びしろが広い選手を中心にとってきました。完成された選手をとるというのは非常に難しい状況もありまして、当然のことながらお金

がなければいい選手はとれない。我々の選手、今年のチームの中には、所謂スーパースターがいませんし特出した選手もいません。このチームでJ1で戦って結果を出すためには。昨年もサポーターの方がダンマクで出していただいたのを覚えています。一字一句までは覚えていないですが、「チームとして戦い、チームで勝つ」というコンセプトで出していただいていたと思います。まさに、この方法以外で今年J1を勝ち抜くというか、残留する方法はないと思います。戦力的にも一人いなくなっちゃいましたけれども、何とかやる。とにかくチーム全体で勝たなきゃいけない。話が戻っちゃうんですけども、だからモチベーションがない選手、規律のない選手はあきらめざるを得ない。チーム全体で戦うということに関しては、選手とスタッフだけでなくフロントもそうですし皆さんもチームの一員だと考えていただいて、是非ご協力いただきたいと思います。若い選手が試合で、特に負けた時、厚別競技場でやる時はゴール裏に行くのが恐いって言うんですよね。去年は成績がよかったからあんまり怒られなかったというのもあるんでしょうけれど(会場笑い)アウェイの方がやりやすいと。本当に成熟していないチームで精神的に弱い選手はやっぱり。だから怒るのをやめろということじゃないんですけども、それがすごいプレッシャーになっている。ただそのプレッシャーを乗り越えないともっとプレッシャーになる試合がこれからどんどん待っていますので、戦っていくことができない。サポーターが怒ってるぞ、まずいぞ、恐いから勝たなきゃいけないんだぞー、ってというのは正直あるんです。グラウンドに飛び降りるとかは止めていただきたいと思いますけども(会場笑い)叱咤激励はしていただいて。札幌ドームにしても厚別にしても、ピッチに立った時にサポーターの皆さんがバーッと応援してくれるんで、僕もそうなんですけど頭の芯がジーンとしびれるような。頭の芯がしびれるってことが快感になってサッカーが止められないのも事実だし、怒られて恐かった。だけどああいうことがあったからまだサッカーをやりたい。一回イヤになって離れてもサッカーに戻ってくる人間はやっぱり、ちょっと病気になるべきか、病気なんでしょうけれども、そういう感動があるからやられているというのが正直あります。ですからサポーターの皆さんもチームの一員として、是非選手を叱咤激励していただいて、後押ししていただきたいと思います。本当に心からお願いします。先ほど申し上げましたが、今年の具体的目標ということであれば、何が何でもJ1に残留すること。そしてそれがシーズン中に見えてきたら、残留できることが分かったからこれでいいやということではなくその上を目指して、もしかして優勝できる可能性があったら当然優勝を目指します。ただ冷静に分析したところ、今この場で今年優勝できるチームです、優勝できる可能性が高いチームであるということは申し上げられないと思います。可能性が全くないわけではありません。他のチームが全部ダメになれば優勝できますから。昨年J2からJ1に上がりました。よく選手と話をする時、極めて分かりやすい話をしないと分かってもらえないものですから特に富士山で話をするんですけども、富士山でも羊蹄山でも構わないんだけれども5合目、J2とは5合目以下だと。我々今年はやっと5合目にきましたと。それで、ここから上に登っていかない

といけない。何かの雑誌なんですからけれども、チーム戦力分析でA B C D Eまで分かれて
いましてね。今年は確かコンサドーレはEだったと思うんですね。A B C D E、これ5段階
なんですよ。Aが9合目、Bが8合目、Cが7合目、Dが6合目、Eが5合目でぴったり
なんですよ。Aの9合目にベースキャンプを張っているチームがJの中でどこかという
浦和レッズ、ガンバ大阪、鹿島アントラーズ、川崎フロンターレなんかと書いてありまし
た。彼らは9合目にベースキャンプがありますから、毎年毎年頂上にアタックできる。そ
こにチームというかクラブがいる。コンサドーレは今5合目まで来た。先ほど社長がおっ
しゃったように財務的にはどうなのか、5合目まで来ているのかどうか。それはあとで質
問してください。ただ結果的にはJ1のスタートは5合目、5合目までは来ている。勝手な
分析でいいですから今5合目にいると。5合目だと頂上にチャレンジするまでに5合登
らないといけない。浦和レッズは1合登ればいい、ということは毎年チャレンジ。一年に
一歩ずつ登っていけば物凄くいい成績になるんですけれども、私に言わせてもらえば
非常に難しいことなんで(実際には)10年か20年かかるかもしれないですが。単位でく
くると5合目にいるチームが上がりたと思ったら最低でも5年かかります。ただ浦和レッ
ズとかガンバ大阪、鹿島アントラーズは毎年頂上にアタックできる。コンサドーレはこれ
からチーム、クラブが何をしなくちゃいけないのか。私はベースキャンプを(一段ずつ)
上に持っていけないといけないと思っているんですね。一足飛びで9合目まで行ける可
能性があればいいですけれども、そういう可能性がないのであれば5号目の次は6合
目、6合目の次は7合目。こうやって登っていくしかないと思っているんです。確実に登
っていくしか我々の道はないですし、まかり間違えば5合目からおっこっちゃう可能性も
十分に残っている。ただチーム、特に戦力という意味では正直言ってお金がドーンと入
ればほとんどの問題は解決するような気がします。先ほど社長から私はゼネラルマネ
ジャーになったと報告があったんですが、私みたいなのがやるより10億円も20億円も
持ってこられる人がゼネラルマネジャーになった方がいい。私個人も思っていますの
で、もしそういう方がいらっしゃったらいつでも交代しますので言っていただければ。本
当にそう思います。ただ、現実的にやっていくには一歩一歩あがって行くしかない。一
歩一歩上がるには何をするのか。ベースとなるチームを作るにはベースとなる選手が必
要である。選手は人ですね。トヨタがモノづくりは人づくりというようなことを言っていま
したけども、クラブ作りチーム作りはやっぱり人づくりからだと思うのですね。人づくりがで
きてチーム作りができてそこでお金が合わさってきたら、こんなに強いチーム、こんなに
すばらしいクラブはないと思うんですね。寮の管理人もやっているの寮生と話をし
ますけれども、すごい夢のような話。夢を持たないとやっていけないので私の夢は、現
実的なサッカー社会の中での最終的な目標は何なのかっていうと世界クラブ選手権で
優勝すること。これがクラブチームの最高峰ですから。この間優勝したのがACミラン。
ユニフォームだけ似ているんですよ。(会場笑い)クラブの規模も違いますし、選手の質
も違う。だけれど我々の目標、現実的な目標は本当にあそこにあった。アジアチームの

浦和レッズは3位。ACミランと浦和レッズの試合がありましたけれども、息子が「ACミラン、手を抜いてたよね」と。小学校6年生でも分かるくらいの差はあって、クラブの規模も差があるかもしれないんだけど、私が目指している最終的な現実的な今の目標は世界クラブ選手権で優勝すること。それをやってく上でもうひとつ考えているのは、コンサドーレ札幌は札幌にある北海道のチームなんだと。私は北海道出身じゃないですけども、北海道でプロ契約としてやっている以上はお金を貰っている分の仕事はまずしなくちゃいけない。で、正直な話、出来ればサッカーの世界で偉くなりたい。偉くなるためには貰っているお金以上の仕事をしなくちゃ偉くなれないんですね。給料の3倍働こうと思っているやっているんですけど、働けていないのでまだまだダメなんですけども。そんな中で寮で子供達を預り、最初憎たらしくてもやっぱり段々可愛いくなくなっていく。デキの悪い子ほど可愛いってというのがあって。何となく一緒にやっていたこの子供達が、例えば西大伍君という選手がいますけれども、彼がいってみれば今の中じゃU-15、U-18、コンサドーレのユース。皆さんに細かく説明する必要はないと思いますが、それでTOPチームに上がってきている。言ってみれば彼が今のところ本当の生え抜きで、ここから先やりたいのはサッカースクールからU-12に上がって15、18、TOPチームと。なおかつ、その中で上がってきた選手が青いユニフォームを着て、日の丸をつけてワールドカップで優勝しましたなんて言ったら、まあ死んでもいいな、というふうには思わないですけど、(会場笑い)また次の選手を出そうと思って頑張ると思うんです。それがやっぱりこのクラブにいるモチベーションだと思うんですよね。金をかけて他チームから人を取ってきて強くするというのは、お金が一杯あったらやってみようと思います。だけれども、そんなのは面白いのかと言ったら、僕は面白くないと思うんです。金を使って他人の力を借りて上に上がってよかったねって。それが嬉しいかもしれないけど、お金は使いたいんですけども、北海道の子供たちが、(果たして)それで自分が。皆さん焼肉やって、カルビ焼いた時に他人に取られると頭にきますよね。(会場笑い)私、預かった子が他の人から茶々入れられておかしくされるのはものすごく頭にくる。ただ個性はなるべくつぶさないようにと思ってやっております。何べんもいますが、金と他人の力で上を目指しても面白くないからそういうやり方を捨てなくちゃいけないと思いますし、現実にお金があればそういうやり方しかない。人は生き物です。花に例えればお金があればきれいな蘭の花を買ってきて家の中で飾ることはできます。高い切り花を買ってくることも出来なければ、花を育てなければいけない。育てるためには畑がいる。畑を耕して、種を植えて、こやしをまいて、大切に大切に育てて、立派な花ができるんですね。先ほど言いましたが、今のところスーパースターはいないんですけども、今後必ず出てきます。(出てくる)約束は出来ないですけど、出てくるように努力はしますという約束はできます。何とも取り留めのない話を、あっち行ったりこっち行ったりしてしまいました。とにかく今年のコンセプトと具体的な目標は、これがコンセプトになるかどうかは分かりませんが「我々はチームで戦い、チームで勝つ」「何

が何でも、石にしがみついてもJ1に残留する」。これが我々の目指すものではないかと。他チームへのメリットとなってしまいますので、申し訳ないですが具体的な戦術等については一切お答えできませんので質問もしないでください。今年もひとつよろしくお願いいたします。(会場拍手)

司会：ありがとうございました。J1になってきますとじゃべれない内容も増えてきて、他チームに情報をあげる必要はないわけで、聞きたいところも山々でしょうけれどもその辺は我慢していただくという事で。このまま次も続けます。2時半に休憩は取りますが、出入りされる方は後ろからトイレその他に行っていて構いませんので、随時お願いします。次に、会社運営に関するお話という事で、佐藤取締役でよろしいでしょうか。はい、佐藤取締役お願いします。

佐藤専務取締役（以下佐藤）：佐藤でございます。今、村野からいろいろ笑いを取るような話もありましたけれども、私は深刻な話で大変申し訳ございません。スポーツ面等で我々の活躍が報道されるのは大変ありがたいですけれども、昨今は政治面、経済面、社会面、多岐にわたって、債務超過の話ですとか借金返済の話ですとか報道されております。私共は、正しい報道については耳が痛いことであっても謙虚に耳を傾けるつもりがございますけれども、場合によっては首をひねるような報道もございます。ここで皆様方には正しいことを是非ご理解いただきたいと思います。まず北海道フットボールクラブの減資増資計画。これについてご説明を申し上げます。減増資計画というのは、一回減資をしてその後増資をして債務超過を解消しようという狙いで行います。債務超過の解消、これは何故必要かというのは先ほど社長も話しておりますけれども、J1昇格要件に、債務超過のあるJ2クラブは昇格を原則として認めないと。ただ解消する具体的な計画等を提出すれば、実現していくという事で認めるという事になっております。そういう事で今私共、債務超過解消が目目の一番大きな課題になっております。昨年秋にJリーグの経営諮問委員会のメンバーが私共の会社にやってまいりまして。その時点でJ1に上がる可能性のあるチームを歴訪していたわけですがけれども、私共は其中で債務超過の解消を強く求められました。そういう事で今、現実の問題となっているわけでありまして。ご存知の方は私の説明が冗漫になるかもしれませんが、一つ一つ申し上げてまいります。債務超過というのは負債が資産を上回っている状態、この事を差します。北海道フットボールクラブについて申し上げますと、具体的な数字で最初は申し上げます。2006年末で資本金は2,556,250,000円、それから累積赤字が2,754,403,589円ということで、債務超過がこの差すなわち198,153,589円残っております。この後は、数字は丸めてお話したいと思っております。具体的に今の数字で申し上げますと、負債にあたる累積赤字が27億円、資産が資本金25億円という事で、その差約2億円が債務超過というふうになまずご理解いただきたいと思います。

で、この債務超過の消し方についてはいくつかの方法がございます。最も望ましい方法は、営業収支の中で何とか黒字を積み上げて累積赤字を消して債務超過も消す。これが一番望ましい方法でございます。従って、その方法についてやる場合にはJリーグも2年間でやればよろしいというふうに言っております。ただ、私共は現状から見て2億円を生み出すのはなかなか難しいと判断しています。実際J1に所属しておりますと、例えば興行収入、広告料収入、Jリーグ配分金といったものが増えますので、マイナス要素の例えばサッカー基金が消滅するとか、札幌市の補助金が減額されるとか、そういうようなことを差し引いても恐らく2008年は前年に比べて5億円前後の収入増になると思います。従って支出を押さえれば債務超過にあたる2億円を生み出す事が可能かもしれません。しかしながら私共は何とかJ1で残留してJ1で安定した戦いを続ける、そういう事を目指しておりますので、収入増の大半はチームの強化にあてたいと思っております。収支の差は殆んどない、利益は上がらないというふうに思っておりますので、2年間で2億円の黒字を生み出すのは難しいと。営業収支で積み上げるのは難しいとなれば、先ほど社長が申し上げましたように資本対策によって何とか債務超過を解消したいというふうに考えました。重複いたしますけれども、今25億円の資本金に誰かが2億円ぽんと乗せてくれれば27億円の資本金になって、債務超過も27億円ですから差し引きゼロで債務超過が解消されます。しかし、27億円もの累積赤字があって、しかも債務超過が2億円、一般の企業ですともう倒産していてもおかしくないようなところに2億円を黙って出してくれるという人がいる、あるいは企業があるというのはなかなか考えづらいことでございます。そこで今浮上しておりますのが、減資をしてその後増資をするという減増資計画でございます。現在の株主様に何も、ほとんど迷惑をかけずに出来るわけですが、今回の減資をして増資をするということについてはいろんな所でご迷惑をおかけすることになります。まずはこの減資及び増資計画についてのご説明を致します。具体的に申し上げますと25億円の資本金の80%、要するに80%減資を目指しますので、25億円の80%にあたる20億円を累積赤字の穴埋めに使わせてもらいます。そうする事によりまして、資本金は一時的に5億円になり、そして累積赤字は27億円から20億円をひいた7億円という姿になります。累積赤字が27億円という姿よりはずっと財務状況がいいと判断できますので、増資にも応じてもらいやすいのではないかと思います。その様なことをやるわけです。2億円の債務超過は減資するだけではもちろん解消になりません。相変わらず資本金が5億円、累積赤字が7億円で、2億円は債務超過になっています。この債務超過を消すためには増資をしなければなりません。そこで私共は今3億円を目標に、3億円ないし3億5千万円というような事もございますけれども、一応3億円を目標にして増資を致します。この増資は、今筆頭株主でありますサポーターズ持株会様による増資運動。以前も5万円一口で皆さんにお願いしたと思いますけれども、その様な事を持株会がやってくださるという事等で何とか3億円を集めたいと。仮に3億円集まりますと、5億円になっていた資本金が、今度は3億円プラ

入されて8億円になります。一方累積赤字は7億円ですから債務超過の状態が解消されます。そして資本金の集まり具合によっては手持ち資金が増えて、チームの強化費に当てる部分が出来るともかもしれないというような期待をしながらこの計画を、今株主さんにもご説明をし、ご理解を頂戴するようなことをやっております。この減増資計画については今の所今月の末あたりに株主説明会を開いて、3月の定時株主総会で決議をいただいてその上で具体的に進めるというように考えております。増資の見通しについては、今北海道経済は大変厳しい状況にありますし、例えば公務員の給与等も切り下げになっているということで可処分所得も減っているという事から、必ずしも楽観は出来ないと考えております。ただ先ほど申し上げた持株会さんとか、あるいは私共も企業様にお願いをしながらやってまいりたいし、まとまったお金を出してくださるという方もいらっしゃると思いますので、何とか目標を達成し、チームに頑張ってもらうだけの体力もつけて、経営安定への足がかりをつかみたいと思っています。7億円の累積債務、累積赤字は残りますけれども、これから一生懸命頑張って何とか消すようにしてまいりたいというふうに考えている所でございます。それから減資について先ほど80%と申し上げました。この80%、減資する場合は80%じゃなきゃならないという事は全くありません。20%でも50%、場合によっては100%でもいいわけです。私共としては、その減資率が高い方が累積赤字を多く減らせますから、そういう意味では90%のほうがいいという判断もあります。80%にしたというのは、一つは分かりやすいという事。今は一株5万円という額面で、80%の減資によって4万円が累積赤字の解消に使われるという事になりますので、残りは1万円になるということです。増資をする場合は一株1万円で募集をするという事になりますので、先ほど申し上げたような募集をお願いしても、1万円だったら何とか協力できるというような方も多いのではないかと。それから100%近い減資をしてしまいますと、これまで応援してくださっている株主様への影響があまりにも大きすぎるということもございます。市民クラブでサポーターズ持株会が筆頭株主になっておりますけれども、こういう姿も維持したいというようなことも80%にした理由の一つでございます。そんなような事で80%というふうに考えております。何とかこの計画を達成したい。3月の定期株主総会で決議をして頂ければ、恐らく5月中旬から下旬にかけてこの計画が終了するのではないかなと考えております。冒頭申しあげましたけれども、私共にメリットがあるという事は株主様にデメリットがあるって事です。皆様方の中にも5万円以上お持ちの方も多いと思いますけれども、一株5万円が一株1万円になる。4万円資産がなくなったというようなことにもなります。企業についても同じ事で、100万円出資していただいても、簿下では100万円になっているのが今度は20万円になってしまうという事で、会社の資産が減ってしまうというような事にもつながりますので大変申し訳ないことでございまして。そういう気持ちに対しての株主の皆さんから頂いている激励や応援、あるいは「やーこんな事されたら困る」というような声も頂戴しておりますので、そういったようなことを頭に入れながら何とか私共が再生するのが株主様への恩

返しだというような気持ちも持ちながらやってまいりたいと思っておるところでございます。以上が減資増資の考え方の概要でございます。それから話題になっているもう一つは道と市からお金を借りている。5億円ずつ借りて、10億円の借金がございます。道の話をして見ますと、5億円借りているお金の返済期限が今年の3月31日となっております。道庁さんはお金を早く返せと、どういうふうに返すんだというふうにおっしゃっております。道の財務内容も大変厳しゅうございますから当然の事だと思っておりますけれども、こちらもなかなかそれだけのお金は1回では返すことが出来ない。3月31日までに一旦5千万円お返しをして、残り4億5千万については道の年度で言えば2008年度、私共で言えば2009年の3月以降、5年間で返済をさせて頂けないかとお話をしてみました。その結果、つい最近でございますけれども、原則として今年3月末で5千万円返して残り4億5千万円を5年間で払うことについては内諾を得ております。4年間5千万ずつ4回で2億円、最後の年に残った2億5千万円を払うという返済計画を立てております。体質改善によって最低でも毎年これだけは返そうという事での5千万でございます。臨時収入例えば移籍金収入だとか大きな収入があったときにはもう少し上積みしてお返しをして何とか5年間で完済してまいりたいと思っております。本当だったら、こういう借金はもっともっと早く返したいと思っておりますけれども10年間1銭も払っておりません。利子だけは払っておりますけれども、これからきちんと返済をしてまいりたいと思っております。同じ様に札幌市さんからも5億円の借金がございますので、この支払いも発生します。どういう返済計画にするのかという事についてはこれから最終的な詰めを行ないます。道庁さんと札幌市さんと両方にお金を返していくということが一方である。一方ではJ1で安定した戦いを続けていくという課題がある。今、そういう意味では辛い状況もございます。J1に上がって大変ありがたいことでございますから何とか一生懸命やってまいりたいと思っておりますけれども、先ほど村野が言っていた世界クラブ選手権で優勝できるような下支えが出来るようなことを、とりあえずは財政面でも頑張ってもらいたいというのが私共の気持ちでございます。道との交渉で経営改善の為に資本金の8割減資と増資、借入金の継続支援ということでお願いをしてみましたけれども、その中でいくつかの項目について経営再建にかかる当社の考え方というのを示しております。道の求めに応じた物でありますけれども、一つは経営責任について。これについては、今は財務内容の改善を当面の経営責任であると考えていると。2006年だったと思いますけれども1億5千万円ほどの赤字を出して債務超過を増やしたという事もございます。経営責任を何にもないなんてことは全く思っておりませんし、感じておりますけれども、道に対してはこのような事を申し上げております。当面J1で戦い続ける事が出来る財政基盤作りが急務であり、その実現に向けて道などに対し経営再建計画を示しています。減資計画が完了した段階で改めて経営者としての責任を明確にしたいと。そして現在は減増資計画を実行することなど経営改善に努めることが差しあたったの経営責任であると考えているというような事を述べております。2番目は今後

の経営方針について。今までご説明した減増資の実施と借入金の返済、それから今後の経営安定化とJ1リーグ定着。これを二本柱にして、興行・販売・広告料はじめ収入増を目指してまいりますというような事を書いております。借入金の返済については先ほど申し上げたような事。それから大事な事はやっぱり北海道に密着したチームであるという事を北海道の方々に、皆さんに理解して頂くという意味で地域への社会貢献事業。これを一生懸命やっていくということを申し上げております。先ほど社長が申し上げたユメセンもその一つでございますけれども、サッカー教室の開催、子供の健康増進のための食育活動を全道的に展開。それから環境保護活動、例えば札幌市内の小学生を対象にした環境未来(カップ)活動、これに私共も協賛しておりますけれども、そういうようなことを約束するとか、去年介護予防への取り組みをやってまいりました。Jリーグから補助金をもらってやっておりますけれども札幌では十数回、30人を対象にしての介護予防。介護予防というのは介護を受けるまでの時間を長くしようという、元気な間に介護予防の運動をしてなるべく介護を受けないですむようにしようという狙いがございますけれども、好評でございましたので今年も出来るだけやってまいりたいと。それから、いつも会場に来られた時にご覧になるでしょうけれども盲導犬の募金活動、あるいは献血活動、そういうようなこともお約束しながら道庁さんのご理解を得てまいりました。以上で説明を終わらせて頂きます。時間によれば45分間という事でございましたので、長く出来るかなと心配しておりましたら案の定まだ15分も余っております。大変申し訳ございません。後で何かご質問があればその都度お答えしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。ではプログラムにはないですが、ここで一旦休憩を入れます。後ろにあります時計で1時半まで15分休憩入れます。また1時半にご参集ください。ようやく今年度分がチャラで来年度分の会場予約費がでておりません。だいたい1回で13,4万円かかりますので、大変申し訳ないですがもう少し出してもいいぞという方いらっしゃいましたら、後ろのカンパ箱によりしくお願い致します。

- 休憩 -

司会：ご来場の報道の方にご連絡申し上げます。平川さんの講演が予定されておりますが、私共もテープを止めます。この場での発言に関しては全くのオフレコ状態でというお約束ですので、報道関係の方も平川さんの撮影、それから音声の収録はご遠慮ください。以上です。

- 休憩 -

司会：それでは会を再開いたします。恐れ入ります、後ろの入り口を一旦お閉めください。
会場係、ワイヤレスマイクの準備はよろしゅうございますか。場内に4本のワイヤレスマイクを用意させていただいております。質問のある方は挙手をして頂いて、私が指名をさせて頂きました方にワイヤレスが届きます。その際ご発言を、その場でお願い致します。それと北海道フットボールクラブさんの方には有線の卓上マイクが置かれてると思いますので、ご着席のままで結構ですので、その場でご担当の方のお答えをお願い致します。よろしゅうございますでしょうか。お願い致します。今までチームの運営方針ですとか、会社の債務超過、増減資、こういうお話がありましたが、これに関してのご質問を承ります。挙手をお願い致します。基本的にはこの2点のテーマでお願い出来ればと思います。あえて違うテーマでということであれば。ただサポーター同士の問題に関しては16時から予定しておりますので、今はあくまで北海道フットボールクラブさんにご質問をして、お教えを請うという形の時間帯です。(会場挙手)はい、その茶色の衣服を着られた方。出来ましたら立って頂いてお名前でもハンドルネームでも結構ですので、名乗って頂くという事で。

ナリタさん：単なるサポーターの1人ですけど、ナリタと申します。先ほど持株の額が5万円から1万円のような形で減資になるというお話だったんですけども、出資している人間にはどのようなデメリットがあるのかなと。確かいつも毎年2試合分くらい無料チケットが来ているような形で、これがきっと配当金みたいなもんなのかなとは思ってはいたんですけども。具体的にそういうようなデメリットが発生するのかどうなのかということをお聞きしたいと思います。

佐藤：チケットについては今検討しておりますけれども、既存の株主様は5万円を出して1株買って頂いた。それからこれからの株主さん、新しい出資者は1万円で1株という事になりますので、そのあたりの不公平感も緩和しながら、今検討することにしております。原則として現在やっていること、要するにSA券を2枚贈らせていただいておりますけれども、それについて今すぐ止めるということはまだ考えておりません。これから相互的に考えるということになると思います。このチケットについては例えば税務署あたりから過大な拝領にあたるとか、そういうような指摘があればまた考えなければならない事だろうとは思っておりますけれども、現状でその面でのデメリットということは、今すぐ考えておりません。ただ5万円が1万円になってしまうという意味でのデメリットは大きいだろうなというふうには思います。株券自体は5万円の株を持っていたとしても5万円で売れるというような状況ではなく、残念ながらゼロ評価でありますけれども。いずれにしても、気持ちとしては5万円のうち4万円は赤字補填に使われるんだなという事になる。そういうところは大きなデメリットだと思っています。以上です。

司会：よろしゅうございますか。その他のご質問承ります。

佐藤：補足させて頂きますと、今の持株会会員の方には、既に作業は進めているんですが、S A 券2枚を今シーズンに限ってお贈りすることは決めております。3月15日にもうホームゲームがありますし、皆さま方から今年はどういうふうになるのかというご質問も多々ありますので、今シーズンに限っては、5万円の株主さんについてはまもなく手許に届くと思います。その後は順次考えていきたいと思っています。今年(札幌ドームでは)S A 券1枚3200円になるものですから、1万円の株主さんにそれを2枚お贈りすると6400円も還元するということになってしまって、それはちょっと私共としても耐え切れない重荷でございます。その辺は改めて考えさせて頂くというふうに思っております。

司会：はい、ありがとうございました。では他のご質問承ります。はい、中央で手を上げられました方。恐れ入ります。ご起立いただいて、お名前をお願い致します。

スズキさん：はい、スズキと申します、よろしくお願いします。報道によりますと、道への説明の際に、中期的に5年10年後、こういうクラブとして運営しますというような形でのご説明があったというふうに聞いておりますが、具体的にどのようなクラブの姿を目指しているのかというのをお聞きかせできればと思います。

司会：お願い致します。

佐藤：今のご質問ですけれども、私共は最終的に道庁さんにお示ししている中では、第18期平成25年、西暦で言えば2013年。その時の見込みは、収支の中では出しております。10年後等は当初話し合いを進める中でありましたけれども、実態として平成25年の数字はございます。これは、どういうふうにお話したらよろしいですか。この段階でももちろんJ1にいるということを前提にお出しをしておりますけれども。営業収益で申しますと例えば平成19年、去年の数字が興行収入、広告料収入、販売収入、その他収入等を入れまして12億3900万円。これに営業外収入がございますので、そういったものも入れた姿が。まず営業収入だけで申し上げますと2007年で合計12億3900万円。今年は18億9500万円、第18期の平成25年が21億8000万円になっております。一番増えている部分はトップチーム費でございます。皆さんご存知だと思いますけれども、J1クラブのトップチーム費平均はだいたい15億円というふうに言われておりまして、中には浦和レッズをはじめとして20億円以上の所もございます。現在私共は約10億円ですから、まだまだ平均にいていないという事で、何とか増やしていきたいという事でございますが、平成25年のトップチーム費の計画は12億4000万円というふうになっておりまして。まだまだ増やしていかなければならない、そう考えております。後はサッ

カー基金。道庁が作って北海道サッカー協会から毎年1億円近く頂いていたお金が昨年で消滅しました。そういうものですとか札幌市さんからの補助金。去年は9000万円でしたけれども来年は5%減になるということで、これからそういったいわば公のお金はなかなか入ってこないというふうに思っておりますので、今申し上げたような数字で推移して行くのではないかと。これはあくまで見込みでございますけれどもそんな姿になっております。以上でございますが、それでよろしいでしょうか。

司会：よろしゅうございますでしょうか。はい、ありがとうございます。他のご質問承ります。
(場内拍手)はいどうぞ。奥の中央の白い服を着られている方。

タケダさん：タケダと申します。私の方からお願いでございます。道にHFCから経営改善計画を提出されたといわれておりますけれどもこの計画、もしよければホームページ上で公開して頂けると皆さん理解が深まると思うんですが。過去にも中期総合計画っていうのがあったそうなんですが、これもホームページ上で公開して頂けるとありがたいと思います。減増資につきましては、いろいろご事情もあると思いますが、減資してから増資しますと後から増資した人のHFCに対する影響力が飛躍的に大きくなってしまおうと思います。関係株主とか関係者の合意とか、そういう物は得られているのでしょうか。その辺りについて教えていただければ幸いです。

司会：はい、お願い致します。

佐藤：まず経営改善計画等のホームページでの公開。これは道庁さんとの話し合い、札幌市さんとの話し合いが全部終わった段階では公開をいたします。中期経営計画、その段階で確定するという事になっておりますので、これはなるべく早く公開を致します。それから今のご指摘のことが確かに減資して増資する場合の問題の一つでございます。旧来の株主様は5万円で1株買って、これからの人は1万円で1株入手できる。株数は変わりませんから同じ1億円を仮に出しても前は2000株しか手に入らなかったのが今度は1万株手に入るという事でございますので、その辺の不公平感が出てまいります。実際のシェア、持株比率も新しくお金を出す人は古くからお金を出した人と同じ額を出しても相当高いシェアを占めるということになりますので、それはご指摘の通りでございます。これについては、そういう仕組みになっているとご説明をしております。今245の株主様全部に個々にお話をしてご理解を得て、お詫びをしてというような事をやっておりますけれども、そういうようなお話になる事もございます。大きな株主様についても同じ事で、今度新しくお金を出す人たちの方がある意味では有利なんですよという事を伺ってもおります。それについて、だからだめだとかっていう所までは耳にはしておりません。何とかそれも含めてご理解をいただいているものというふうに私は

承知しているところでございます。以上です。

司会：よろしゅうございますでしょうか。

質問者：ありがとうございました。

司会：はい、ありがとうございます。では、他のご質問承ります。ちょうどそちらの柱のそばにいらっしゃる方。その場でお立ち頂いて、お名前をお願い致します。

ヨコハマさん：ヨコハマと申します。読売新聞によりますと、札幌市や道の他に栗山町ですとかコンサドーレと関係の深い各自治体からも出資を頂いているというような報道がありまして、その対応がばらばらだというような報道を目にしたんですけれども、どのように対応していらっしゃいますでしょうか。宜しくお願いします。

佐藤：今、札幌市3000株、北海道3000株、栗山町40株、七飯町40株、室蘭市20株、帯広市20株と、それぞれの自治体から出資をして頂いております。読売新聞が書いた段階では、実は七飯町と室蘭市についてはご説明に伺うという事で、すでにアポを取っておりました。今申し上げると弁解に聞こえるかもしれませんが、その時点で当然帯広市と栗山町にもなるべく早くご連絡をして伺うと考えておりました。その矢先にああいう形で新聞に載りまして、私供も大変不備があったと思う反面、すでにアポを取っているところもあるんだけれどもという気持ちもございました。しかしながら事実は事実でございますから、申し訳ない事であるなと思っておりました。それで新聞に載った段階の、恐らく一週間以内ぐらいで全てのところに。帯広は2月1日だったと思いますが、栗田町、七飯町、室蘭市もそれ以前にご説明は終わっております。で、私供はご理解も頂いているというふうに思っております。以上でございます。

質問者：ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。では他のご質問、受け賜ります。はい、そちらの黒い服を着られた方。お名前をお願い致します。

オザキさん：オザキといいます。宜しくお願いします。二点あるんですけれども、まず一点目です。減増資の話ですね。今まで質問も出ましたし、大まかな概要についてご説明頂いた所ですけれども、我々も今までマスコミを通じていろんな話、本当かどうか疑わしい事も含めていろんな話が出て来た訳ですけれども、今までホームページ上、公式での説明のようなものが全くなかったと。これがどういった事なのか。既存の株主さんの権利

が一部、言わば奪われてしまうような、結果的に出資金がなくなってしまう訳ですから。損するような事になるという非常に大きな事だと思うんですけども、これについて、サポーターに対して、意見を聞くというような事があったのかどうか。ご承知の通りだと思いますけれどブログ上あるいは掲示板等でも「俺のところに、何も話来てねえんだけれども」という話が相当数見えますけれども、この辺どうなっているのか。もう一点。先程、中期計画だとかというようにご質問もございましたけれども以前、2003年ですか、コンサドーレ札幌強化計画という事で出ておりまして、今日持ってきたんですけれどもPDFになってホームページ上でも出ているんですけども、これが今どういった状況になっているのか。中期計画、長期計画という事ですけども途中経過の状況ですね。どういった形になっているのかという事をホームページ上でも、途中経過で全く構いませんので、分かるような形にして頂く。それも、もっと見やすい所で。トップページから直接行けるような所だとか。クラブの将来像に関わるような非常に重要な部分だと思いますので、宜しくお願いします。

児玉：ホームページ上で、これまでの交渉の経過その他を公表しろというご指摘だと思います。その点については同感で、同ような考え方をしております。一切の情報を公開をするというのが私共の姿勢ですので、やって参りたいと思っています。ただ、現在までのところ道庁と札幌市と話し合いの段階で、昨年12月17日に第一回の要請書を出し、2月4日に第二回の要請書を出し、この間ほぼ2ヶ月から3ヶ月、週2回から3回、道庁との間でいろんな話し合いをする。そして説明に来て欲しい、あるいはこういう所こういう点はどうなんだっていうふうに数字が動く。この3ヶ月間ずっとやって参りました。ホームページ上に掲載する事は、ある時点では可能だったかもしれませんが、逆に道庁サイドからは知らないうちに情報が外部に出ているという指摘があったりして、その辺の情報管理についてずいぶん厳しく。道庁と話し合ってきて、私共の方から数字あるいは考え方を事前に流すという事についての良し悪しがずいぶん問われたのがこの3ヶ月間でした。そろそろ固まって参りました。札幌市の場合は経済委員会である程度議論が終わり、道庁の方は環境生活委員会で議論が終って、これから予算委員会に入っていきます。実際の舞台は予算委員会で、例えば収支計画をこうするのはちょっとおかしいんじゃないとか、5億円を、4億5千万円を本当に5年間で返せるのかというふうな議論とか、さまざまな議論が予算委員会で出て来ると思います。その時にこういう数字、実現性のない数字をどう考えるのかとか、さまざまな意見が出た場合に私共の対応をどうするのか。その時に、既にホームページ上ですべて公開してしまっていて、これは手直し出来ませんって事はできない段階ですので、その辺をご理解して頂ければ大変有難いと思います。ただ、5段階計画の今がどういう段階であるとか、これからの中期計画をどうするか、それは今回、道庁・札幌市の話し合いの背景を成すような部分について、きちっとした段階ではお出ししたいと思っています。今の段階は5段階計画の最後

の段階、第5段階目と考えています。今後の中期計画もこれまでの5段階計画を踏まえて育成型で行く事については、間違いございません。育成型のチーム作りを行って、更に経営基盤を強めて行くという意味で中期計画を作っておりますので、5段階計画とそれ程大きな返りはないと思っております。道庁との話し合いその他が一旦終わった段階で、ホームページ上で公開したいと思っております。それからHFCのミッションとか、どういう事を考えているかについて、私が冒頭で申し上げたような事は現在、ホームページ上ですぐ入りやすいような形で作成中です。間もなく出来上がると思いますので、ホームページを見て頂ければ大変有難いと思っております。

佐藤：それから減増資計画について、サポーターの意見を聞いた事があるのかというようなお話がありました。計画の策定段階で、個々に、皆さん方にご意見を聞くような場は持っておりません。サポーターズ持株会にご説明をして、そのの理事会でお決め頂いたところはございますけれども、個々にお話をさし上げた事はございません。それから3月21日の定時株主総会にこの関係の議案を諮られるかどうかはまだ確定ではございませんですけども、その段階で決議されて、それから具体的に取り組む事になります。皆様方が持株会の会員でいらっしゃるならば、当然その段階で持株会から個々の皆様方にいろいろな形での情報あるいはお願い、そういった物が行く事になるというふうに思っております。

質問者：今表にできない話もいろいろあるという事は勿論承知の上で私も質問しているんですけども、情報に飢えている人がここにいる以外にもたくさん、サポーターが大勢いるという事はご理解頂きたいと思います。ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。ちょっと、主催者の方から。減増資の問題ですとか、そういうのはここにお集まりの方、心配していると思います。ただ、全くコンサドーレに興味を示さない一般の道民から見ますと、ここにお集まりの方は目一杯受益者でありまして、コンサドーレからいろいろな利益を蒙っている。感動であったり勝利の喜びであったりと。それよりも先に全くコンサドーレに興味がなく、税金を投入して頂いているいろいろな地方自治体や一般企業さんにきちっとご理解ご説明を頂くっていうのが、HFCさんのご苦労なさっている部分だと思いますので、第一受益者である我々が情報を知りたいのは山々なんだろうが、その辺はちょっとご理解を頂ければなというふうには思います。私も正直、いろんな事は知りたいんですけども、サポーターと呼ばれる今ここにお集まりの方々よりも、非常にコンサドーレ札幌というチームの存在自体に批判的なご意見っていうのも多々ございますし、いろいろなご意見が道内にたくさんあって、それは結構だと思います。ひとつの意見にワーストと行く方が危険だと思いますが、いろいろな各界の方に我々のチームの存続意義ですとか、そういった物のご理解を賜る活動

中という事のご理解を頂ければというふうに思います。はい、次のご質問、受け賜ります。はい、どうぞ。

ノサカさん：ノサカと申します。報道された中で、北海道また札幌市から、HFCに対する減資・増資・融資を認める事の要求として、経営責任の明確化と供に抜本的なコスト削減策ってというのが求められていたというふうに報道されているのですが、これは具体的にこういったような内容だったのでしょうか。私、一応ボランティアやっているものですから真上の一旦をちょっと見てるんですけれども、はっきり言ってそれ程運営とかに関して削れるような費用ってというのは、もうあんまりないような感じがするもので。強化費は減らさない、逆に増やすというような事を言われていますが、道とHFC側、この辺の認識差があるのかどうかお伺いしたいと思います。

佐藤：強化費については、若干温度差はあると思っています。J1で戦い続けられるために、何とかチームの強化費を上げて参りたい。収入増の殆どをそちらの方に回したいという気持ちでありますけれども、道庁さんの場合は借金返済もあるんじゃないかと。借金の返済、即ち3月末で5千万円返して、あと4億5千万を5年間で返す。その部分を出す為には、営業収支で黒字を出さなきゃなりませんよと、このように言われております。かなり大変ではございますけれども、そういうような事がなければどこからお金を持ってきて返すんだと、道庁さんからは言われておりますし、それも一面ではごもっともな事でありますので、何といいましょうか、チームを強化しながら借金も返すというようなところで折り合いをつけているのが実態でございます。それからスリム化という表現はしております。言葉でスリム化と言ってはおりますけれども、例えば減増資についても経営のスリム化に繋がる事でございますし、おっしゃって頂いたように経費を削減できる部分がそれだけあるかどうか、これからきちんと整理して参りたいと思っていますけれども、そういう所があれば削減してスリム化をして行くという事でございます。宜しいですか。

司会：宜しゅうございますか。

児玉：経営責任のお問い合わせがございましたんで、私の方からご説明します。今年はどういう年かというとやっぱりJ1に上がって安定的に戦って行くために財務強化をする。これが第一の私共の命題だと考えておりまして。当初、相当早くから経営責任を道庁側から言って来て、経営者が変わればじゃあ良くなるのかと私供としても考えて。経営責任の内容がどういうふうな事をおっしゃっているのか分からないけども、経営陣の刷新あるいは経営陣の交代というふうな表現もございました。今、常勤役員は私と佐藤専務の2人で、これを変えろという事なのかというふうな質問も、私も致しましたけども、そうではないんだというふうな表現があったり。非常にその辺道庁さんの考え方にもブレが

あって、そんな話し合いを3ヶ月間やっていくうちに、だいたい収まる所に収まってきているかなって感じが致します。経営責任という問題については再建計画をきちっと立てて、それから道への5億円の返済用途をきちっと作れという事。それについては減増資計画が終わる、そして新たな再建計画の第一歩がきちっと踏み出せるという事になった段階で、経営責任という物を明らかにしたいと。こう当初からずっと申し上げて来ていて、そういう方向では道庁さんも同ような考え方に近づきつつあるかというふうに思っています。ただ、佐藤が言いましたように強化費に対する考え方については相当開きがあって、Jリーグの各チーム状況その他から考えてJ1に定着する上で強化費は当然必要で、幾らあっても足りなのが現実ですよ。そういう事について道庁さんの方は要するに強化費抑制という事もひとつの選択、或いは大きなスポンサーを捜して来なさい。どこかにそういう人がいるんじゃないかと。そういうふうなお話し合いもこの間随分ありました。私共もスポンサーの獲得については従来いろいろ努力して来ていますけど、一方で例えばこんなやり取りもあって。じゃあ本州資本が急に乗り出してきて買い取るよと買われて行く事が果たして道民の利益に適う事なのかどうかというふうな反論も致しました。実際にウィンザーホテルとかガトーキングダムとか道民の資本で作った会社が、道外資本によって安く買い叩かれて行くという事がコンサドーレにあっていいのかどうかという事も言ったり。或いは大きな株主さん、出資者によって、コンサドーレの経営が左右されるような事がある事は非常に避けるべきではないかと。企業クラブみたいになって、その企業の盛衰に寄ってクラブの存続が危うくなるよう事もやはり避けたいと。その為には持株会を中心とした市民クラブ的な色彩を作る事が一番いいんじゃないかという事も常に申しながら議論をやって来て、現在に至っているというのが実態でして。経営責任それから経営に関する事では少し開示している部分もありますけれども、徐々にその辺の所は理解が深まって来ているかなっていうふうな感じです。以上で宜しいでしょうか。

佐藤:ものすごく極端な印象を受けるような経営のスリム化というようなご発言がありましたけれども、私共が道庁さんに提示している所ではそういうような表現はございませんで、収入増や経費削減による収益をトップチーム費の増加と北海道や札幌市からの借入金の返済に充てたいと考えておりますという文言でございます。

司会:ご質問者、宜しゅうございますか。はい、では他のご質問を承ります。ご質問ございませんか。はい。

ウンノ:ウンノと申します。宜しくお願いします。ひとつはお願いと、ひとつ質問なんですけれども、まずお願いの方から。今日こういう形で減増資の話ですとか税金の問題とかいろいろとありましたけれども、我々サポーターに対しては非常に情報があり触れて、先程齊

藤さんがおっしゃいましたけれども、では一般の道民の方に対してはどれだけアピールしているか、自分が第三者的な目を見た時に果たしてどうだろうか。一般の道民の方に対してアピールが足りないんじゃないかと思いますので、HFC含め会場内にいっぱいメディアの方がいらっしゃると思いますので、特に報知の記者の方もさっき拝見致しましたのでお願いしたいなと。メディアの皆さんにより正確に、正しく、そしてちょっとサービスした報道をお願いしたいと思います。宜しくお願いします。それで質問なんですけれども、先程児玉社長の話の中にありました10万人計画、10万人のサポーター。これ大変魅力的な物だと思いますけれども、先程ちょっと調べて、2月6日の新聞報道におきまして、J1の新潟の方で後援会の名簿、つまり個人情報なんですけれども、それが流出して選挙に利用されたという報道がありました。少し神経質なのかもしれないんですけれども、もし10万人の計画をやるにあたって、受け皿としては今どういう状況になっているのか、もしくは整っていないくてこれから作って行くのか、差し仕えのない範囲で教えて頂ければと思います。宜しくお願いします。

児玉：まだ一步踏み出した段階でして、具体的には決まっておりますけれどもこんなふうに考えています。サポーターの皆さん、ファンの皆さんの数は、コアの形では1万2千人。そして11月18日の京都戦で3万2千人。それから去年のワールドカップのサウジ戦と日本代表戦、これが4万人入りました。アンケートをやって、このうちの80%の方がコンサドーレのファンだというふうにお答えになっているんですね。そうしますとコアのサポーター1万2千人にその周辺が3万2千人いらっしゃるというふうに考えておりまして、この層を10万人にするにはどうしたらいいかという事を、現在考えています。1万2千人のコアの方々をどんどん増やして行くという事が私共の願いでして、年間25%ずつ増やして行くとほぼ4年で4万人になります。それを更に10年計画或いはその前に達成できると思います、25%ずつ増やして行けば、10万人計画っていうのを達成して行きたいというふうに思っています。その方法として幾つかございますけれども、後援会の活性化。発足した当時は、私共に入れて頂いてたお金が年間おおよそ9千万円ございました。ところが13年経って人も変わり、組織の活性化、メンテナンスをして来なかったという事もあって、去年の決算でおおよそ9百万円。当時から比れば10分の1に支援額が減ってしまったという事もございます。ですから後援会。それからファンクラブ、持株会は当然増えてくるでしょうしそういった方々を一体化した新しい組織を目指すというふうに考えておりまして、これを進めて行きたい。どう進めていくか。ひとつには食、食育の後援会作りファンクラブ作りをやると。例えばニトリグループの中で企業内のファンクラブみたいな物を作ってもいいよというお話も似鳥社長さんの方からございますし、今まで例えばJRとか札幌市とかいろんな食育で様々な講演会ができていたけれども、その方々をもう一度活性化して行きたいと思っておりまして、そういう方々を情報の一元化。先程情報流出の危険性という事もございましたけれども、これを頭に置きな

からCRMでITを使いながら情報を管理し、この情報を使って皆様方と交流しながらさまざまなサービスを提供し、更に皆様方と一緒に盛り上げて行きたい。例えば徳島、湘南。これはパイロット式にやったのですけれどもデータースタジアムと一緒に観客の実態をCRM、要するにITできちっと把握して反映している。どういう事をやるかというと、例えばスタジアムの入り口にカードリーダーを置いてこの方が年間何回来ているか、どういうふうな物を買って頂いてるか、全てお互い分かるようにしながら進めると。ファンクラブに入っている、一度もスタジアムに足を運んで頂けないお客様も多分何人かいらっしゃる。その方々に向けて、例えば無料の招待券を送る、あるいは来て下さいっていうDMを出す。ファンクラブの活性化とかスタジアムへの誘導を促すとか、そういうふうな事をこれからやって行きたい。もっともっとサポーターもファンも私共もその辺の情報を共有しながら、全体的なHFCの収益増に結び付けたい。こんなふうな思いで10万人計画を進めるというふうになりました。それについて、社内にも新しいセクションを置いてやって行く事にしています。以上です。

司会：宜しいですか。

質問者：はい、ありがとうございました。

司会：はい、ありがとうございます。その他、ご質問ございませんでしょうか。はい。

ヤマモトさん：ヤマモトと申します。楽天とかビックスポンサーが付けばうちも楽になるのに、コンササポでない一般の人にも金のないチームだねと。どうして全国企業がこのコンサドーレというネームバリューに気が付かないのか、付きさえすれば解決するんだと今までずっと勝手に思い込んでいたので、これから一般の人に対する説明を180度方向転換して、本州企業に乗っ取られないような北海道のチームで、スポンサーになってくれるところを捜して行って強くなって行くんだ、金を仕入れて行くんだと、そう説明していくという事でよろしいのか、もう一回再確認させて頂きたかったですけども。

児玉：はい、本州の企業でお金を出して頂く、スポンサーになって頂くっていう事があれば、私共は基本的には大歓迎です。でも、その人達が経営に関与して行くという事については疑問を持っている。対極軸としては、やはり北海道の企業が総体としてコンサドーレを応援するんだっていう枠組みができる事が一番いいですね。そういう方向で現在も考えておりますし、実際に例えばホームページ上で明らかになっていますけれども北洋銀行さんがスポンサーとして復帰してくれているとか。北洋銀行さんは、高向会長が道商連の会頭。道内の経済4団体のトップにいる方で、去年の石屋製菓さんの件があって以降、石屋製菓さんのコンサドーレに対する思い入れそして今までやって来て

頂いた事は大変有難い。その一方で、石屋製菓さん頼りにしてたんじゃないかという思いが道内の産業界の方にもございます。もっと道内の経済界全体でコンサドーレを応援しようよというふうな空気が昨年から少しずつ増えて来ておりまして、そういう事がニトリさんのスポンサーっていう事にも繋がりましたし、北洋さんのスポンサー復帰という事にもなって来ております。これから私共はもっともっと努力して、道内の経済界を巻き込んで、ひとつの運動としてコンサドーレを支えて行くシステムが出来上がれば一番いい。こんなふうに思っております。ヤマモトさん、本州のスポンサーでいいところあったら紹介してください。(笑)すぐ参ります。(笑)

質問者:もしマイクロソフトが20億円出すとかって言われたら乗るのかなとか、そういう勝手な期待は持たないって事で、ありがとうございました。

児玉:いや、その辺は非常に悩ましい所で、例えばマイクロソフトが20億出すよと言ったらどういうふうに考えたらいいでしょうね。本当に皆さん方の気持ちを聞きたいの、僕らも。確かに経営的に安定して、J1の幾つかのクラブ、相当数のクラブは損失補填契約を母体企業と年間10億円、それが10年計画っていう形で殆どやって来ていましたよね。だから浦和がここまでなったのも年間10億ずつ10年間ミルク代が、要するに三菱自動車から入っていたと。その結果が、やっぱり今の浦和に繋がって来ているし。大阪にしても松下が付き、名古屋はトヨタが付きとか、そういう形で母体企業が損失補填して来ていて今の形になっている。その一方でフリューゲルスがああいう形でなくなるとか、そんなふうな事もあって、やっぱり私共として考えるのは市民が支えるクラブ。それが自治体も支える、経済界も支える、そして道民、市民も支える。三位一体の地域密着型クラブっていうのが理想ではありますが、やっぱり望ましいかなと思ってのですね。その趣旨を理解して、本州からたくさんお金を入れてもらうんならこれまた有難い。そんなふうに思ってます。

司会:はい、ありがとうございます。他のご質問。はい、どうぞ。

キシヤマさん:キシヤマと申します。2点、ご質問したい事がございます。第一点目なんですが、シーズンの途中で大きな補強に乗り出す可能性の有無についてお伺いしたいと思います。これまで数年、経営的な状況からシーズン途中でうまくいかなくても大規模な補強をするという状況にないという事は私共、皆理解している所でございます。ただ、今年に関しましては、先程からご説明頂いた経営計画の中でもJ1に残る、残り続けるという事が大変重要な要素のひとつになっております。そうすると、もちろんこれまで通りに、どのような状況になっても大規模な補強はしないっていう方針がひとつある中で、もう一方の考えとして今年に関してはうまくいかなかった時に、単年度である程度の出血

を覚悟してでも、大きな補強に踏み切るという考え方も現実的にあり得ると思います。その辺り、もちろndという状況になるかはこれからですけれども、現時点ではどうお考えになっているのかお伺いしたい点です。第二点目に付きまして、ホームページで発表成されました育成部の人事についてお伺いしたいと思います。今年、何人かコンサドーレから離れられた事もありまして、例えば育成部長に関しましては村野さんがご兼任なさる、チーフは旭川の松山さんがご兼任なさる、強化部から佐藤尽さんが出て旭川の監督になられたなど、比較的大きな異動があったのですけれども、全く情報のない外部の側からすると、これだけ兼任があったり移動があったりする事で育成部としてかなり大変になって行くのではないかという懸念がございます。どうしてこの体制でやって行けるのかと判断されたか、或いは今まで強化で成されていた佐藤尽さんの後任として新しく人が入ったのかどうかなどについてお伺いしたい。これに関連しての補足質問で、今まで何回かサポーターズ集会をやっているなかで、サポーター側が何気なくスカウトって言葉を使っていたんですけれども、これについても去年あたりも幾つかの質疑応答の中で齟齬があったように思います。他チームの戦術偵察をするという意味でスカウトであったり、新人選手を獲得する上のスカウトであったり、そういう二通りの意味があってそこを混同して、一括にしてスカウトと使っていた事で、質疑応答でうまく行かなかった事があります。今、HFCさんで新人獲得を目指している所謂スカウト活動を何というふうに言っているのか、他チームを偵察する上でのスカウトはどのように言っておられるのか、用語の確認をして頂けたら、今後何年かのサポーターズ集会でも意思疎通がうまく行くのではないかと。関連の質問としてお伺いします。以上の二点、宜しくお願い致します。

村野：はい、村野の方から答えさせていただきます。まず、シーズン途中の補強ですけれども、うまく行っていれないと思いますが、更にうまく行く為に補強する可能性もあります。先程の質問の中で、今年に限ってはやるのかってというような事をおっしゃっていたんですけれど、基本的には、今年だけに限ってやるというような考えでやるのはなるべくしたくないと思います。ただ、例えばJ2からJ1にこれをやれば上がれる、J1からJ2にこれをやれば落ちないという事を、翌年度以降のクラブ全体の方向性やプラスマイナスの部分を考えた時に、えーいやって形で切った張ったと言う事がないと言う事は言えないですし、あり得ると思います。いろんな状況が出てくるとしますので、責任のある人間がその場その場で最適な判断をして。責任と権限っていうのは表裏一体ですので、権限を発動する前には責任がついて回るという形でやって行きたいと思っております。基本的に今のチーム状況はクラブの状況に直結するという事もありますので、昨年度から特にそうなんですけれども。普通現場の人間でコストパフォーマンスなんて考えないですよ、監督とかコーチとか。うちのチームの監督、コーチはコストパフォーマンスって言葉をよく口にします。これは私が毎日、朝、昼、晩、コストパフォーマンス、コストパフォ

ーマンスと。金を掛けて強くするっていうのはそんなに難しくないんだけど、失敗したらなくなっちゃうんですね、このクラブ。現場は一年契約でやっているのですんなり事考える必要もないのかもしれないですけども、強くしたってなくなったらしょうがない。一番に考えたのはクラブの存続、次は強化。強化するために何が必要。育成が必要だ。育成のためには普及が必要だ、普及するために何が必要だ。人、物、金っていうのがあって、ひとつの目的に対して幾つもの要因、更に枝葉が広がっていく。現場とフロントとのコミュニケーションは比較的いい方だと思っていますので、一貫した考えの中でやっていけるのではないかと思います。シーズン途中の補強については、そんな感じで宜しいですかね。育成部の人事について、育成部の部長もおまえがやるのかっていうようなご意見はあると思うんですけど、正直な所、昨年度育成部長をやっていた森下くん、ジュビロ磐田のU - 15の監督になります。ジュビロ磐田から正式にオファーを頂きました。本人とも相談して。彼は浜松出身なんですね。故郷に戻ってそういったチャンスがここから先あるかないか分からないし、やってみたいっていう本人の希望を出来るだけ優先させて上げたいと思っています。コンサドーレという中で考えるのもひとつでしょうけども、サッカーという大きな枠で捉えて、いろんな所で経験を積んで、いろんな引き出しを手に入れた人間がコンサドーレに帰って来てくれて、育成組織を充実させてくれる。そこから将来的に日の丸を背負うような選手、ヨーロッパでやるような選手、日本がヨーロッパ並みになればいいんですけども、出てくるためにはいろんなところで経験を積むのもいい話じゃなかなと。そのような視野で、人事は考えました。旭川の監督であった賀谷も鹿島アントラーズからオファーが来まして、鹿島のノルデというチームがユースである。そちらで経験を積むとうちにまた戻って来る事があるかもしれないでしょうし、他に行く事があるかもしれませんし、鹿島でやってく事になるかもしれませんが。先程言ったように、まず本人の希望をなるべく最優先させてやりたい。で、いなくなった後の人事体制で大丈夫なのかっていう事をご質問されておりますが、基本的にはこの体制でやるしかない。いろんな人間がいろんな事を兼務しておりますが、将来的な絵は私の頭の中ですけれども描いています。また変な夢みたいな話になっちゃうんですけども、社長もここにいるんで、頭の中で何を考えているのか、皆さんの前でちょっとだけお話したい。育成に関しては東雁木を拠点にし、これまたお金が掛かる話になるんですけども、U - 18は全寮制にしたいなと。東雁木のグランドのすぐ横に全寮制をしいて、その寮を3階建てとか4階建てにしまして、1階にはクラブの事務所が入っても育成の事務所が入ってもいいです。そこにU - 15・U - 12のスクールの子達が着替える場所、そこでご飯が食べられるような場所を作って、2階3階にはU - 18の寮だとかトレーニング施設を入れて。私、育成部長になったものですから、Jリーグの育成会議にも参加してるんですけどもU - 15・U - 12、先程社長も言ったんですが、食育って事に非常に力を入れているクラブから選手が育って来ているという実情があります。柏レイソルはグランドが千葉県柏市に当然あるんですけども、自前のスタジアムとトップチ

ームの天然芝グラウンドが2面あって、育成のグラウンドがその横に3面くらいあるんですか。そのすぐ横にレストランがあって、トップチームの選手はそこで朝昼晩ご飯が食べられるようになっていて、U - 18とU - 15の選手は練習が終了したと同時にレストランに行って、晩御飯を食べて家に帰ります。何から何までやってやる必要はないですけども、こと環境に関して、食べ物サッカー選手のガソリンですから良い物を食べさせて。特にU - 15くらいから朝昼晩と食べると身体が随分変わってきます。基本的な所は、マネジメントの方で何とかやってあげたいなと。社長にも察があったらいいねとおっしゃって頂いたりしています。ただ、現実的にお金が伴うものですから出るものと入るものをできれば、儲ける必要ないんですけれど、とんとんにしないといけないという計画を作って何とか。何年掛かるか分からないんですけど、これを実現したいなと。これが実現できれば恐らく自前の選手で、他から誰も獲らなくてもJ1定着、また次のステップがすごく明確になって来る。外国人選手3人入れて補強を何人入れればトップを狙えるなど。そうすると先程言った5合目じゃなくて7合目、8合目にチームが持っていけるんじゃないかなと。育成はしていかないといけないっていう認識はありますし、財政的に現段階ではこれでやらざるを得ないと先程申しましたけれど、育成を軽く見ているというような事は全くなく、私は物凄く重要に考えてます。強化の次の人材は秘密でちょっと言えないので、すいません。でも、ちゃんと考えています。あと、スカウトの概念。用語の統一と言う事なんですけれども、どういう風に使っているかと言ったら「スカウト」というと選手を獲得すること。試合を偵察みたいな行為に関しては「スカウティング」と言っているのが一般的かなと思います。強化部長とかみんなにはそういう風に使い分けると指導していきますんで、よろしいですか。

質問者：将来の部分まで伺いすることができて、大変ありがとうございました。

村野：ありがとうございました。

司会：はい、ありがとうございました。お時間もきたんで、このへんで打ち切らせていただいてよろしゅうございますか。あればうかがいますけれども。はい、あとその2名様ですね。その2名で打ち切らせていただきます。はい、どうぞ。

挙手者：これはどこで言おうか迷ったんですけれども、スタジアムの喫煙に関することなんです。今厚別、ドームとも、スタンド内は完全禁煙で、厚別に関してはメイン側のコンコースでバックスタンド側とかゴール裏が後ろの方にスタンド式の灰皿出して、ドームが喫煙室及びハーフタイムには混雑するということで北2ゲートの横に臨時の喫煙所を設けてやっています。それで某オフィシャルブログで見たんですけれど、そのことに関して要望書を社長宛、また運営部宛に出されているということ何ですが、HFCとしてはス

タジアム内での喫煙に対する今後の方策はどういうふうにお考えになっておられるでしょうか。将来的に完全禁煙にすることで段階的に進めているかとか、ドームや厚別を管理する札幌市なんかとの関係もあるかとは思いますが、ちょっとそのへんお伺いしたいなと思ひまして。

司会：一応ご質問ですので、恐れ入ります、お答え願ひます。

児玉：スタジアムでの喫煙というふうに絞ってもよろしいですか。個人的なことで申し訳ないんですが、私はたばこ吸わないんで、スタジアムでは全面禁煙にしたい。ところがなかなかそこまでできない部分もあって、部分的に喫煙室を設けたり喫煙場所を設けるということにしておりますけれども、将来的にはスタジアムでは全面禁煙にしたいと思っています。どういう段階でやるかまだ検討していませんけども、そういう方向であることは間違ひない。当然スポーツを生業としている会社、そしてサッカーというスポーツを楽しむ環境の中で喫煙というのはやはりそぐわないと思っていますんで。近い将来、そういう方向へ行くとおもひます。社会も歓迎すると思ひますんで、そこは私共も考えていきたいと思っています。今のご質問は、やはり禁煙しろという趣旨でのご発言ですか、それとももっと喫煙場所を増やせというご意見なのか。私共も是非サポーターの皆さんのご意見は聞きたいと思ひますけども。

質問者：ですからサポーター間の問題という側面もあるかなと思ひたんで、ここで言うのはちょっとどうかとも思ひたんですけども。私個人から言うと、たばこは吸いません。厚別にしろドームにしろ吸うことに対してはあまり、今までそんなに関心なかったんですけども、北2ゲートにしても煙のトンネルのような凄ひ状態になっていると。ハーフタイムのときですね。喫煙者から見てもそういう状態になっているということで。これが確かドームでしたら最初から。できた当初からではなくて多分2002年とか2003年とか、その辺からそういうの作ようになったと思ひんで。喫煙室だけでは溢れるような状態だったんで、けっこう吸う人たちがいるからそういうふうな状態になったと思ひますし、その時期って内地の方に住んでいたものであまりそのへんの状況は知らないんですが、ここ数年そういえばそういうふうな状況になっているなっていうのは確かに感じていて。たとえばハーフタイムに、前半後半とか出入りする人とか口には出さないでしょうけど、やっぱり嫌なものとかあったんじゃないかなと、ちょっと最近考えるようになったもので。

児玉：分かりました。要望書をいただいたということは・・・ないよね？

石井部長(以下石井)：いや、まだ。

児玉：運営部長の石井が来ていますので。喫煙室の設置とかそんなことで何か言うことある？

石井：特に今の段階では、施設がうちのものじゃないことなので。ただ現状、ブログに書かれている内容はドームさんあたりにはお伝えしています。

児玉：そういうふうなことです、よろしいですか？

質問者：すみませんでした。

司会：はい、ありがとうございます。では最後の方、お願いいたします。

挙手者：おそれいます。児玉社長が皆様のご意見を聞きたいというので。先ほどクラブの関係で、本州資本がスポンサーになるのはいいけど経営参画は困るという話をされました。ただ今日もいらしてらっしゃるんですが、例えば渡辺執行役員がJALから出向されていると思いますけども、JALは本州資本だと思います。(会場笑い)で、申し訳ありません、渡辺執行役員。JALさんは以前から濱田翼常務ですとか門脇徹常務ですとか、いずれも歴代常務なり何なり取締役に来ていただいております。この辺本州資本のどこまでを入れて、どこまでが。例えば申し訳ないですけど、AirDoだったらいいけどJALはどうしてとかね、そういう話にもなるかと思います。僕個人の意見を言いますと、クラブを運営するのは本州資本でもどこでもいいと思います。これは日本ハムファイターズを見ても分かるんですが、北海道という土地にチームがあって、高いレベルの試合が見れて、そのチームが活躍していただければ、僕は満足です。どこに本社があっても構いません。これは僕個人の意見ですので、いろんな意見もあると思います。企業の栄枯盛衰というのはつきものでして、北海道に本社があろうが本州に本社があろうが経営が悪くなる時は悪くなるし、経営状態がいい時はあるでしょう。それはその時考えるしかないと思います。もうひとつ全然関係ない話なんですけど、ちょっとお願いががございます。ホームページの更新です。過去のコンサドーレの、96年以来の試合内容とか過去のニュースとか、去年ホームページ更新した際にかなり消えて見えなくなっています。もし記録等あるのであれば、どこか片隅でも結構ですから。良いことも悪いこともたくさんございました。HFCにはそれも含めて全部歴史ですんで、全部ホームページ上で見れるようにお願いしたいと思います。以上です。

司会：はい、お願いいたします。

児玉：まず本州資本の関係ですけども、うちにはサッポロビールさんを始めJALさんに出資

していただいて、しかもユニフォームスポンサーになっていただいています。そういう意味で会社を支えていただくということで大変ありがたいと思っておりますけれども、私共の経営のやり方について基本的に対立するあるいは反対するとか、サッポロビールさんやJALさんの考え方を押しつけてくるということは特にございません。渡辺本部長、いらしていただいていますけれども、これはJALさんの厚意で私共に来ていただいて経営を助けていただいているという趣旨でございます。濱田翼さん、それから門脇さん、そういった方々も同じような形で参画していただいています。だから経営をJALさんが私共コンサドーレ、北海道フットボールクラブを左右するとかそういうことは今までなかったというふうに理解していますし、その辺は誤解のないようにしていただければ大変ありがたいと思っています。

佐藤：それと、ホームページの更新で消えている部分があるところのご指摘でございますけれども、今復旧を急いでおります。ホームページに関係している会社に要請、依頼をしておりますけれども、データの変換等なかなか難しいところがあったりして、少しくまいてない部分がございます。しかしながら、できるだけ早く復旧すべく努力はしておりますので、もう少しお待ちいただきたいと思います。

質問者：ありがとうございました。

司会：はい、ありがとうございます。それでは質問タイムをこれで終了させていただきます。ちょっと時間がおしております。これから15分休憩に入りまして、3時からサポーター有志からのお知らせということで、今のところほくせんさんと長島さんからお知らせがあるようです。そのほか3つありますか？ その後の方もまたあとでご紹介させていただきます。では休憩に入ります。

- 休憩 -

司会：それではお時間になりました。サポーター有志の方からのお知らせに移ります。出たり入ったりされているサポーターがいらっしゃいますが、こちらのカウントで現在、延250名のサポーターの方がご参集いただいています。一応ご報告いたします。それでは、ほくせんさんの斉藤さん、お願いします。

斉藤：はい。皆さん、こんにち。ほくせんカード、サポーターズカードの斉藤と申します。毎年こちらで報告させていただいておりますけれども、今年度も寄付金額の中間報告などをさせていただきますので、ちょっとお時間いただきますがよろしく申し上げます。まず前年度の寄付金額、こちらが233万6257円となりまして、例年通り昨年の最終戦の

日に、児玉社長にお渡しさせていただきました。渡していただいた方ですけれども、毎月出演させていただいているジェイコム札幌さんの月曜サポスタの番組中で募集しまして、たくさん応募いただいた中からアキノ様に代表となっていていただき、お渡しいただきました。今期は9月1日から始まりまして、12月までの4ヶ月間で現在のところ84万2271円という金額が上がっており、昨年と比べましても月平均の金額がアップしているというところですよ。一応今年度の目標金額を250万円ということで掲げてまして、サポカードをご利用いただいているメンバーの皆様のおかげで現実となるかもしれないというところですよ。前年度、目標にしていました寄付金の総額、こちら2001年からサポカードが始まっているんですけれども、累計1千万円ということで目標を立てさせていただいたんですが、ちょっと超えることはできなかったです。けれども今年度に入りましてからおかげさまで1千万円を超えることができました。サポカードご利用メンバーの皆様の努力と汗とご利用のたまものだと思っております。チームがひとつ上のステージに上がりました今期、我々のサポーターズカードも更に高い目標として(今期)250万円を突破できたらいいなと思っています。ここまで金額のご説明させていただいているのに何ですが、皆様毎年こちらに来ていただいているのでサポーターズカードがどういうものか、もうお持ちいただいていると思っていますけれども、改めてサポーターズカードとは何ぞやということをお知らせさせていただきたいのですが。受付のところでもリーフレットを置かせていただいているので、ご存知ない方ご覧いただければと思うんです。サポーターズカードはご利用金額の1%がチームの方に寄付できるということで。ほくせんサポカードを使っている自然の流れで寄付金額がたまっていくと言う、大変チームにとってもいいカードじゃないかなと思うんですけれども。今日はサポカードをお持ちいただいている方が多いという想定のもとに、誠に勝手ながら、ほくせんの楽しいサービスをご案内させていただくCMタイムにいただきたいと思うのでよろしくお願いします。公共料金など毎月のお支払いをカード払いにできるというのはご存知でしょうか。今までもご案内したことがあるんですけれども携帯電話の料金ですとか、道新・朝日新聞さん、天然ガスの北海道ガスさんと北ガスジェネックさん、LPガス。こちらもほくせんカードで支払いができるようになりました。室蘭ですとか函館の試合の時ですとか、ご家族などでのドライブに行く時に使われるETCも持ち込むことができます。あと、アウェイの試合の時にGOODSを、お土産をたくさん買いましてお財布がピンチという時には、全国のセブンイレブンですとかコンビニのATM等で使えるキャッシングサービスも年中無休24時間ご利用いただけます。更にほくせんで今注目、お薦めなのは、パソコン・お電話で注文いただけます北海道ですとか全国のおいしいグルメなどを取り寄せできるサービスもご紹介してます。会員誌それからホームページでご紹介してますので、ご覧いただければと。例えば今月のご紹介は、春限定のにごり酒ですとか梅酒、お菓子店のスイーツですとか、そういったおいしいものをご紹介しています。それと各種交通チケット、いろいろなチケットサービスを販売しておりますので、よろしければご利用いただきなが

らサポカードの寄付金がたまっていけばいいなと思います。ほくせんではホーム試合のチケットも取り扱う予定ですので、例えばシーズンチケットを買い忘れた方、一緒に観戦されるお友達、ご家族の追加チケットが欲しいという方がいらっしゃいましたら是非ご利用いただければと。意外と知らない色々便利なサービス、キャンペーンなど、サポカードの皆さんがご利用いただいても楽しいサービス等あるかとは思いますが、そういったちょっとしたご利用でチームに寄付できる貢献できるカードでありたいなと思っております。最後になりますけれども、世知辛いこのご時世でもありどうなることかと思いましたが、今年度も微力ながら、ほくせんが引き続きチームを応援させていただく。スポンサーとしてチームを微力ながらサポートさせていただくことになります。会社としても私個人としても、盛り上げるためにもサポタズカードを今後ともよろしく願いできたらと思います。長い広告タイムで申し訳ありませでした。チームの話から外れてしまいましたけれども、これで報告など終わらせていただきます。どうもありがとうございました。(会場拍手)

司会：サポカードは皆さんお持ちだとは思いますが、持っていない方がいらっしゃったら是非作ってください。ここに石屋製菓の「白い恋人」を意図的に出しておりますけれども、当然サポでしたら必ずご自宅には「白い恋人」があって、冷蔵庫を開ければサッポロビールと。(会場笑い)当然今年からは家具は全部買い換えていただいて、(会場大笑い)家具は二トリということになると思いますんで、大変ですよ。で、その家具を買う時にはほくせんさんのカードという、逃げられませんか、皆さん。(会場笑い)ということをお願いします。では、次。開幕ちらしに関して、長島さんお願いします。

長島さん(以下長島)：皆さん、こんにちは、長島です。「またお前が出てきたら、あれか」っていうアレです。開幕1週間前ちらし何ですが、本来でしたら8日鹿島戦前の1日か、15日ホームゲームのマリノス戦前の8日と考えていたんですが、3日前くらいに選手の皆様がお帰りになると。ひょっとして選手の皆さんもちろし配りをしてくれるんじゃないかという淡い期待を持ちまして、3月の3日か4日か5日、この辺ちょっと微妙なんです。今月20日前後くらいにオフィシャルホームページですとか各報道機関さんを通じてそのような告知がありますので、もしもお時間がありましたら、平日夕方になると思うんですが、是非とも参加していただきたいと思います。今年は1週間前じゃなくて出来ましたら。村野さん、選手はどうなんでしょう。

村野：雪次第です。

長島：え？

村野：雪次第、雪次第ですね。帰って来れるかっていうのが、まずあります。練習が出来るか出来ないか。

長島：ロアッソ戦のあとですよ。

村野：はい。

長島：じゃあ、雪がないことを期待して。

村野：そうですね。もし、宮の沢で。宮の沢でしか練習場所がないんで、ここが無理だと言うことになればそのあとに帰ってくることになるかもしれないですね。

長島：日時的には、きついんでしょうか。

村野：雪が溶けていれば。(会場大笑い)

長島：雪が溶けて、帰道できたら、選手の皆さん方も出していただけるという格好で考えてよろしいでしょうか。

村野：監督と相談します。

長島：サポーターとも三位一体でやりたいっていうのが三浦さんのご意見ですよ。

村野：はい、はい。(会場拍手) 相談します。

長島：ではおいしそうな話を想定しながら3日か4日か5日か前後くらいに。オフィシャルと各紙の皆様、そちらの方に短信出しますんで、どうぞ今月新聞取っていない方も取ったり、パソコン壊れてる人は早急に直してオフィシャル(ホームページ)をチェックいただきたいと思います。今年は1週間前にちらしはやりませんので、平日夕方、たぶん暖かい場所で選手と一緒に出来ましたら、ちらし配りをしたいと思います。よろしくお願いします。(会場拍手)

司会：はい、ありがとうございます。では、ミオウギさん、いらっしゃいますか。はい、じゃあお願いします。

ミオウギさん：ミオウギです、よろしくお願いします。まず昨年9月15日の4万人計画、皆様

のご協力いただきまして大変ありがとうございました。結果は2万2303人でしたけれど、多くのサポーターの皆さんが集客いただきまして、通常の2万4500が約8000人程、仙台戦で達成することができました。今年も引き続き、昨年暮れからスタッフが集まりまして、1月1日からブログ等でご案内いたしまして、先だって1月20日にファン感謝デーでもちらし配りをさせていただきました。今後またやっていきたいと思います。昨日一昨日と雪まつり会場でちらし配りをさせていただきました。今長島さんから言われまして、本当はドッキングしてやりたかったんですけど。これから予定に入ってる3月2日ですか。はい、分かりました。ニトリさん、今回胸のスポンサーになっていただき、それで私達も話をしまして、是非ニトリさんの前でやりたいということで3月2日厚別店。これを一応計画しております。それと3月9日も計画してるんです。これも厚別店ですけど。本来でしたら、前年やっていました丸井さんの前でちらし配りを一緒にやって、その後また違う場所でやりたいなと案を出しておりました。ですけど今回それが夕方近くなるということです。3月8日鹿島戦なんで、この時ニトリさんの前で。ニトリさんの方から逆に提案がありまして、1店舗じゃなくて5店舗どうですかと。厚別店と川沿店と月寒中央店と麻生店と宮の沢店、この5店舗が重点5店舗だそうです。その前で、というか中では分かりませんが、これは全部社長の方に報告するようになっていきますので、これに皆さんお手伝いできないかなと。たまたま一番大事な鹿島戦ですね。皆さんアウェイに行っていると思いますけど、残っているメンバーでお近くに。麻生に近いよ、宮の沢に近いよという方がいましたら、12時から1時でだいたい予定しております。後ほどブログ等いろんな面でご紹介させていただきますので、是非とも新しい観客を動員するためにも皆さんのお力をお借りしたいと思いますし、同時に今日来ている皆様方もまた友人知人ご家族の方、また9・15に増して、そして開幕4万人をやっていきたいと思いますので、ご協力の程ひとつ宜しくお願い致します。ありがとうございます。(会場拍手)

司会：えー、ジェイコムさん。

千葉：性懲りもなく続いている月曜サポスタというジェイコムの番組です。冒頭ほくせんさんからご案内がありましたけれども、今だにジェイコムで月曜隔週で生放送出しております。後ろの方に司会の田中さんとか、海野さんとか見えられてるんですけども、スタッフが足りなくて非常に困っております。出演される方、あとはいろんな行事、こんな事やりたいよという告知をされたい方、どんどん私共の方に言って、放送を通じて。サポーターの方に周知徹底していけるような環境にございますので是非とも利用していただきたいと思っております。スタッフもネタも少々切れ気味で困っておりますので、何か面白いな、こんな事やって欲しいなって思うことありましたら、私共の方にご相談いただければと思います。ただ、スタッフもみんなサポーターがやっておりますので、お金がかかった

りだとか事前準備が必要だとかってというのはご遠慮いただきたいなと思っております。
これから是非ともよろしくお願いします。(会場拍手)

司会：ありがとうございます。先ほどもちょっと申し上げましたけれども、やっぱり我々サポーターがお世話になっているスポンサーさんに何ができるかという、ビールいっぱい飲む。それから、本当に白い恋人全てに印字がされてるか自分で買って、一つ一つ確認しながら食べる！とか。飲むお茶にしても今日はこれになっています、コカ・コーラ。これも全部スポンサーさんですね。当然、今日もニトリさんの方もいらっしゃっていますけれども、家具はニトリですね。とにかくまず、今自分の家にある家具を早いうちに壊すことを考えて、(会場笑い)買い換えの段取りをしていただかなきゃ困ると思います。そういう形で、コンサのスポンサーになって良かったなと。コンサドーレサポーター、侮れないなというふうにスポンサーに思っていたければシメシメでございますんで、必ず買い物されるときはスポンサーがどこかと。商品はどこがスポンサーなっているのかなということちょっと頭の片隅に留めたいと思います。それでは、ここからは平川さんのお時間で。公式のテープ収録も中止になります。報道関係の方、お聞きになってメモを取られる分にはいいですが、撮影それから録音はご遠慮ください。

- 講演 -

司会：一旦後ろ閉めてください。非公式なんですけど、この中で持株会に入っている方、手、ちょっと上げてもらえます？あ、多いですね。佐藤専務の方から、また戻りますが、減資に関してちょっとお話があるそうです。

佐藤：私、さっき減資増資の説明をさせていただきまして、その時に本来であれば皆様方にお詫びをしなければならないところでした。それを失念いたしておりましたので、今こちらの皆様方、持株会の会員で5万円以上お出しになってる方がたくさんおられるということでございますので、私共の減資によって大変申し訳ないことですので、ここでお詫びを申し上げます。それからご理解もぜひ頂きたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

司会：はい、ありがとうございます。それでは、サポーター同士の話し合いに入っていきます。ご提案ですとかご発言があれば。なければ、こちらの方で進めていきますが。後で思いついたら、パッと手を挙げていただいても結構です。まず、色々なボランティアというか、自主的な活動をされてるサポーターがいらっしゃると思いますが。一番危惧しているのが、今年11に上がることによって、また列並びが過熱するという心配があると思います。今列並びに携わってる方。ダメだって、後ろ向いても。昨年何か問題点があった

りとかしたら。ちょっとワイヤレスお願いします。列並びの件で。今ドーム北2の列並びの段取りをしていただいている方です。どうぞ。

イマイズミさん：ドーム北2ゲートの列並びの整理をする担当しておりますイマイズミといいます。初めに昨年度末、大変コンサドーレも成績良く、京都戦水戸戦と朝早くからたくさんの方が集まったところで、HFCのホームページに、最終戦の時に前日夜の8時に並びについて説明がありますので有志の方に従ってくださいという形でアップされていました。そんなに偉そうなものではないんですが、その時も300人という大変な人数も想定してなかったんで、やっぱり慣れないところもありまして、いろいろと皆様にご不便かけたなと思いますが、当日何とか無事運営できましたことを皆様のご協力の賜だと思えます。この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございます。前日、ルールについては説明申し上げまして、当日もかなりの方が朝7時ということを前日告げたにも関わらず来ておりまして。今年度はもっとたくさん来るんじゃないのかなと思っております。その中で、もしご提案やご不満、質問等があれば、今この場で話は聞きたいと思えます。私以外にも担当の者が何人かおりますので打ち合わせして。基本的にはこのルール、自主ルールと呼んでますけども、現場でみんなて話し合って決めることを原則としております。15日がドーム開幕戦となりますが、その前日の14日20時に皆集まって話し合いをすることになります。それを踏まえた上で、まず皆様のご不満、ご提案、ご質問あれば今聞きたいと思えますので、何かあればよろしくお願いします。

司会：はい、ありがとうございます。ついでに北3も、ひと言。キョウコ先生、ちょっと立ってください。北3はカワムラキョウコさんが、いろいろとお手伝いをしていただいている状態です。北3の方では特にトラブルとかはないんでしょうかね。大丈夫ですか。

カワムラさん：はい。

司会：はい、ありがとうございます。

カワムラさん：ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。今年また、いっぱい人がいらっしゃると思いますので、皆さんと力を合わせながらやっていきたいと思えます。よろしくお願いします。

司会：列並びに関して何かご意見があれば今承るということですが、あれば挙手お願いします。昨年も私、最後の方のパニック状態の300人並んで名前書くのに1時間以上かかったという、それにも立ち会っていましたけれども。要は前日名前を書いて、次の日朝一番に来て、順番(どおりに)整然と並んでいただくというお約束があるにも関わらず、

いらっしゃらない方が。問題になるのは当日の朝一番に、6時前にもう並んでらっしゃる方がいて、そういう方々とトラブルになるというのが一番可能性の高い部分です。朝こんなに早く来たのになぜもう300番ぐらいになってるんだみたいな、そういう話になっていきますので。そのルールが良いのかどうかという論議はここでは差し控えますけれども、基本にご提案やご不満な部分は現場主義ですので、先程イマイズミさんが仰ったように現場に行ってお発言を頂いて、そこにお集まりの皆さんの総意で決まれば、それがルールになっていきますので。ネット上で要らぬ批判をしたりということのないように、全て現場主義でお願いいたします。特にないですか。なければリーダーの方、大変お手をかけますが今年も安全な運営のために労を執っていただくようお願いいたします。後はフラッグそれからダンマクに関しての方、誰かいらっしゃいます。ダンマク誰かいらっしゃいます。フラッグのリーダー、ウンノさん。

ウンノさん：ウンノです。よろしくお願いします。そうですね、事前搬入という形、ダンマクとかフラッグ出してらっしゃる方ってどれくらいいらっしゃいますか。あ、結構いらっしゃいますね。事前搬入、毎試合札幌ドームに限っては、開場の2時間前に入ってやるっていうことになっています。今のところ掲出に関して大きい問題は僕の耳には入ってないんですけども、もしそういうことに関して質問がありましたら、こちらもしっかり現場主義ですので、現場の方でお互いに顔を見合って話したいと思っていますので、遠慮なく声かけてください。よろしくお願いします。(会場拍手)

司会：はい、ありがとうございます。石井部長すいません。今年J1に上がることによって、例えば緩衝帯エリアですとか、そのへんが大きくずれたり変わったりとかってことはあるんでしょうか。(石井回答)そうですか、分かりました。それは2月一杯には大体結論出ていくような形なんですか。

石井：今シーズンシートの販売状況も含めた中で、来週Jリーグで会議がありますんで、それを含めて。2月一杯を目処に社内的なコンセンサスを取りながら、開幕前にはホームページでお知らせできるかなというふうに考えています。

司会：分かりました。ありがとうございます。ダンマクの張るエリアですとかも微妙に変わる可能性がありますので、ホームページ等で発表されるということですので、ダンマク掲出のサポーターに関しては、昨年こうだったから今年もこうだろうという先入観ではなく、毎年変わるということで注意していただきたいと思います。あと、赤黒ダンマク掲出に携わっている方、誰かいらっしゃっていますか。今日はいらっしゃっていませんか？ダンマクのマリさんが今リーダーですけどもその方から今度。赤黒ダンマク掲出の労を執っていただいているサポーターの方もいらっしゃいます。赤黒のダンマクは皆さんの寄付で百

万円近いお金が集まって、生地を買って、女性サポーターが延々何百メートルもミシン縫って作ったやつを出しています。スカパーですとか地上波見ていただいても、監督選手が横から抜かれた時に画面の後ろが全部赤と黒の映像になるのをちょっと狙っているという部分があるんですが、非常に勇気づけられるんで。もし、いらっしゃったらお話を伺いたいと思ったんですが、今日はいらっしゃらないので。ダンマクのリーダーの方に、例えば私も少し資金的に援助して、赤黒の1メートルでも2メートルでも協力したいという方がいらっしゃれば、当日お申し出ください。その赤黒ダンマクを掲出するのも結構ものすごい分量になって、大変な作業になっています。北1ゲートから入っているんで、お手伝い頂く方はキックオフ4時間前に北1ゲートに行って、赤黒ダンマク手伝いたいと言っただければ、その日からすぐできますので手を貸してあげてください。あとは歌詞カード、自主的にやられてる。結構みんなに反響があるんですけども。あの、ちょっと話を聞かせてください。

指名者：何でしょ？

司会：いや、何でしょうって。応援歌の歌詞カード、自費でお配りになってるその内容を。

指名者：今年も配りたいなとは思ってまいすが。ドームの階段を上り下りすると足にきてしまって、震えがくるので、去年ぐらいからゴール裏だけに限らせていただいております。厚別だとぐるーっと回っても大したことないので回ってるんですけど、大体一試合に500枚位を配らせていただいています。開幕の時は例年2000枚から3000枚位持ってきて、新しい歌が出ましたよーって言って回ってるんですけど、足りないなと思われる位売れ行きが良くて、あっという間になくなりますね。シーズン後半ぐらいになると500枚持っていてもなくなる状態に、売れない状態になってきますけど。去年の場合は後半になっても欲しいという方が多くいらっしゃって、配り始めて30分ぐらいでなくなってしまうっていう状況が続きました。新しい方が来られてるのかなというのは、やっぱり配ってるんで良くわかるんですけど、まあそんなような状況です。今年も頑張っって配ろうと思ってますので、よろしくお願いします。(会場拍手)

司会：ここにいらっしゃるサポーターは歌詞カード、ほとんど要らないと思いますけども、お友達だとかお連れになって、コンサの試合初めて観られるという時には、彼が配っていますので、一枚二枚もらってお友達に差し上げると非常に良く分かっていいのかなと。コンサドーレ教の信者を獲得する時のひとつのアイテムかなというふうには思います。ただ、全くの自費でやられていることですので、もしお心があれば若干のカンパで、彼の紙代ですとかそういったものに寄付をしていただければ助かると思います。あと何か、こんな活動を私はしてますよというような方がいらっしゃればこの場で言って呼びか

けていただいて。あとCVSの方、誰かいらっしゃってますか。CVSの幹部、役員の方いませんか。ピッチに背を向けて応援する崇高なボランティアスタッフに、本当に頭が下がるんですが。人数が足りないとかってことがあるみたいなので、今年はやってみようかなと思う方がいらしゃったら、CVSの方にお問い合わせください。特にサポーター同士で話し合いが必要なことというのは、ありますでしょうか。ありませんか。やっぱり昇格すると何も問題はないんですよね。（会場笑い）勝利に勝る薬はないんですよね。これがJ2で12位とかったら、もう凄い色んな意見が出てくるんですよね。それでは、時間も早いですがとも終わりにしますか。何かありますか、はい。

拳手者：先程スタジアムの煙草に関する問題が、質疑で出まして。あの時間はあくまでもHFCとの質疑ということで、児玉社長から将来的には禁煙の方向でと、話は終わってたかと。あの時間はそういう時間ですからそれで良いかと思うんですけども、ここにいる皆さんの中でやっぱり。私もそうですし彼もそうなんですけど煙草すいませんで、そういう方向に進んでいただいて私は別にいいかなと思っているんですけど。ただ吸う方の意見というのも当然あると思うんですよね。この時間で、皆さんどうなのかなっていうのをちょっと気になったもんですから、今発言させていただきました。

司会：はい、今のご意見に対して。私は俺は、煙草を吸うぞというようなことが...、後ろの方どうぞ。今手挙げられた方。

拳手者：僕自身は全く吸わないし、昔吸ってたんですが。むしろ煙草の匂いを吸うと具合悪くなる方なんですけど。現在の北海道の喫煙率を考えると、喫煙者をシャットアウトするってというのはまずもって不可能な話だと思います。お客さんが減ることになりかねないんで、全面禁煙化には反対です。分煙するマナーを徹底するのは大事だと思うんで、現状で僕何ら問題はないと思うんです。ハーフタイム等に2ゲートのところが喫煙所になって、そこが煙いっていうんだったら行かなきゃいいだけの話なんで。そこにわざわざ煙草嫌いな人が行って煙いからヤダヤダってというのは、余計なことすんなよって気は僕はします。厚生省の悪口言ってなんですけど、健康増進法で病院敷地内を全面禁煙にしたときに病院内でどういうことが起こったかということ、それまで喫煙所で吸っていた人達が、どこでも吸えないんだったらどこで吸ってもいいやになっちゃって、結局ルール違反が起こるだけなんですよね。そういう形になるのがもう目に見えてるんで、それであれば今の状態で、僕は何の問題もないんじゃないかなと思っています。

司会：はい、ありがとうございます。その他にご意見、賛否両論結構でございます。この場で発言したいという方いらっしゃいましたら。はい、すいませんお願いします。

拳手者：去年も一昨年と同じこと言いましたけど、アウェイ選手に対してのブーイングがちょっと。何て言うのかな、何か余計というか失礼というか。

司会：ちょっとその件に関しましては、後にしていただけますか。今、喫煙の件に関してのお話で。（拳手者「あ、どうもすみません」）はい。喫煙の賛否両論...はい、後ろの方。白い服を着られている方。

拳手者：僕は子供がおります。当然のように子供たちを連れて行くこともありますし、地方の子たちも連れて行くこともあります。その際に喫煙者のモラルがかなり低いということで、子供たちの怒る場面が去年もありました。一昨年もまああったんですけど、去年は特に酷くて。ひとり厚別で髪の毛に、手に持ってる煙草の火が着いたという事実があったぐらいで。そういう意味でもサポーターのモラル向上について考えて、それで分煙という形が良いのではないかと、そのように思ってます。分煙に反対はしていません。ただしそのエリアの人数であるとか、そういうことを少し考えていただきたい。なぜかという準備のある、場所のあるところが決まってしまっている。本来煙草を吸う人が多いところに、そういうスペースが少ないと。それがひとつの形で北2のゲートであるとか、そういう形ができておられるとは思いますが、もしそうなのであればそこに何らかの対策。煙を外に出さないとかっていうことではなくて、例えば煙を吸い込む装置であるとかっていうものを置けるようにしていただければと、そのようには思っております。サッカーをやっている子どもたちのことを考えると仕方がないことかとは思いますが。特に強くその辺はお願いしたいと思っております。意見はそんな感じです。

司会：はい、ありがとうございます。また新しい観点のご意見が出ました。ただ単純に全面禁煙か禁煙反対かではなくて、もう少しサポーターひとりひとりのモラル、またそのモラルが守られるような環境作りっていうのも必要ではないかというのがご意見だったように思います。ほかに、分煙に関して。はい、というような内容がサポーターの意見でございます。はい、どうぞ。

石井：先程休憩時間にちょっと説明させて頂いたんですが、札幌ドームの場合、ハーフタイムに北2の喫煙所を作らなければいけないという理由が、実は既存の喫煙場所であると南の方に、恐らく北と比較すると1対2ぐらいの割合で喫煙スペースが多いんですね。人口密度から言うと北の方が多くて、北2に作らざるを得なくなったというのが、作られた経緯です。で、今仰った様に北2の中に煙を吸い込む装置とかという部分はドームさんに掛け合ってみたいと思います。ドームさんの方で問題視している部分で言えば、実は授乳室の横が喫煙室になっていると。あってはならない様な事なのかもしれないですが、問題としては我々の試合以外でも出ているそうです。サポーターさんのHP等

に載っている部分については、私共でプリントアウトして、ドームさんにこういう問題が起きていますという事は伝えてあります。問題意識を持って頂いていきますので、前向きな意見についてはドームさんの方にまたぶつけていきたいと思っておりますので、宜しくお願いしたいと思います。

司会：はい、ありがとうございます。やはり先程の方の発言にもありますが子供達、いわゆる未来のある子供達に大人のわがままの喫煙、その煙を吸わせるというのは非常に身勝手な事ですので。子供達は最低限守らなければいけないという部分と大人達の趣味嗜好の部分と、それから施設を借りて運営しているドームや厚別。自分達のスタジアムがあるのであれば改善をお願いしますで済む事なんですけど、施設を借りながら運営しているという部分もありますので、一概にすぐ改善は出来ないかと思いますが、議事録上も、分煙の問題に関してサポーターが大きな関心を持っていたと言う事を記録に留めさせて頂きたいと思っております。それと先程の方。アウェイサポーターのブーイングの件に関して、ご提案があったみたいですが、どうぞ。

指名者：提案っていう訳じゃ無いんですけども、やっぱり歓迎すべきな気もするし、余計なブーイングは要らないんじゃないかなという風にちょっと感じるんですけど。

司会：はい、どうぞ。

拳手者：ちょうどそのお話が出ましたので、私も同じ内容で違う観点から。ウルTRASの方おられたら提案と質問と言う形でお伺いしたかったんですけども、僕は逆にブーイングするんだったら音が足りないと思うんです。ずっと思ってた感想で、特にアウェイチームの紹介の時、相手選手、相手チームの監督までブーイングがある一定程度の音で続く。だけど、音がもうちょっと欲しいなと。ちょっと物足りないなと言う気があるので、その事についてどうお考えなのかと言う事を聞きたいのと、提案としては無視という選択肢はありえるかなと。誰か一人の特定の選手だけに特大分量のブーイングを浴びせる。例えばマリノス戦だったら相手の10番。(会場笑い)10番に特大のブーイングを浴びせて、後は無視。そう言う考え方も出来るのではないかなと言う事で、もし誰かにそう言う提案に対してどのようにご反応されるかなとお伺いしたかった。もう一つのブーイングに関する御質問。多分ウルTRASの方がリードしているんじゃないと思うんですけど、コンサドーレがリードしていて相手チームがバックラインでボールを回す時、ブーイングが聞こえる。これが非常にみっともなく聞こえる。こっちがリードしてて相手が時間使ってきてくれるのにブーイングするってのがみっともなく聞こえる。多分これは、後ろでボール回してる時は機械的にブーイングするんだと言う人達がゴール裏にある程度居られると思うんですけども、ちょっとみっともないってなった時に、例えばウルTRASの方でそ

れを消すようなアクション。例えば海外だと、からかう様にパス回しが綺麗だねって感じで、パス回る度にオーレオーレって言ったりしますよね。そういう事が出来ないのかなって言うのが、今日用意してきた質問と提案です。もしウルTRASの方いられたら、お考え聞きたいなと思います。

司会：すいません、USいますか。いないっすよね。今日は、帰った？来ていた、US。はい、いない所で欠席裁判みたいな事してもしょうがないんで。ただ、その件に関しては昨年も一昨年も出ていた話題だと記憶しておりますが、どこかのチームの様に軍隊の様に応援を統制するのも如何なものかなと思いますので、それは各人の御判断という部分が一番宜しいのではないかなと。その中で札幌らしい応援が成熟されてくのかなとは思いますが。もし、強くそれを念じられるのであれば今のご発言者がUSの中に入っていて、USをリードされてやられてもいいのかなと思いますけども。まず一歩前に出て、自分で行動を起こすというのも一つの方法だと思います。その件に関しましては際限の無い話になりますので、これにて打ち切りと言う事で。あと、何か御提案ありますか。はいどうぞ。

拳手者：二度も三度も発言すみません。サポーターに対する事ではなくて、HFCに対して質問とお願いなんです。今年も北2ゲートで、S席とSS席の並びというのは発生する予定ですか？

司会：宜しいですか？

石井：それは北2で自由席レーンと指定席レーンが出来ると言う解釈で宜しいでしょうか。

拳手者：はいはい、そうです。

石井：それはそのつもりでございます。

拳手者：出来れば廃止して頂きたいんですよね。何故かと言いますと、もちろんチケットを持って並んでいるんですけども、S席とSS席の列に並んで徐にB自由席に走って入場される方が結構跡を絶たずおられまして、1年間に3、4回は、私達が毎回行っている場所の近辺に、必ず来られるという現象が起きております。これを見過ごすと言う事は、折角サポーターの間でルールを作って前日からやってる所を全く無視して、当日の朝、S席のチケットを握り締めたら後は自由に、B自由の並びを無視して自由席の裏のどこでも行けるよと言う事を意味してる訳で。それはあえて言えば、B自由席の僕らが作っているルールを無視した上で、どうぞ勝手にやって入ってくださいと言っているのと

同じ事を意味してるんじゃないかと。だから出来る限り、例えばどうしてもS席とSS席の列を作っておくと言うのなら、B自由席の入場開始後15分なり20分なりずらした後に入場するとかって言う工夫をして頂ければと思うんです。S席SS席入場の方は指定席なんですから、その時間に入る必要はないですよ。前からそう思ってたんですが、ここで強くお願いをしておきたいと思っております、それで今日は発言させて頂きました。(会場拍手あり)

司会：如何でしょうか？

石井：この場で即答するのはちょっと難しいかなと思いますので、持ち帰らせて頂きたい。今の意見に対する、そういうSS・S席を持たれてるサポーターの方の御意見もまとめて頂ければと言う気がします。

司会：すいません。ちょっと後で指します。SS席やS席のチケット持ってる人は座席決まっているんですよ。でも、雰囲気だとか色んなのを味わいたくて並びたいと言う方もいらっしゃるんですよ。ただ、逆にそう言う方は別室に案内して、それこそ入場が落ち着くまでこちらでおくつろぎくださいってお茶でも出していた方がいいんじゃないですかね、特別席で。B自由席が落ち着いたら、ご入場頂きます。お座席はありますのでという対応は出来ないでしょうか。そうすればトラブルは解消しますよね。ちょっとその辺も含めて。はいどうぞ。

拳手者：僕はSS席を持ってるんですけども。今発言された方の意味も分かるんですけども、SSとかSで早く並ぶ人って、例えば先行発売グッズとかドームでしか売ってないのとか、そういった面で並ぶ方も結構いるんで。そういう機会がほんとに無いんでしたら、先程の提案も受け入れるのは多分問題無いかなと思うんですけど。今後もHFCさんの方で、ドーム限定何体とか福袋先着何名様とか、そういうのが無いんだったら問題は無いとは思いますが。SS・Sだけ遅らされるって言う意見はちょっとどうかなっていう感じはします。

司会：聞いてみないとわかんないですよ。逆にSS・S席というのはチームに対してたくさんお金払って貢献してるんですから、その方だけ例えば50体のグッズの20体はお待ち頂く特別室に別に置いておくとかっていうのも一つなのかもわからないですよ。その辺は運営とも絡むので、不用意な発言は出来ないと思いますけども、その辺のトラブルがあるみたいですね。はいどうぞ。

拳手者：私もSS持ってますが、分けてる事自体、初め知らなかったんですよ。ある時行っ

てたら、凄く雪多い時に、SS席持っている方こっち来てくださいますとやっていて初めて分かったんですよ。何故SS席とS席を一般の並びと変えたのか分からないんですよ、理由が。特別扱いしているのか。普通通りみんな並んで入って行けばいいんでないかと私は思ってるんです。個人的ですよ。

司会：と言う御意見もございます。それもまた正論ですよ。たまたま券種が色々あっても、並んで入る順番に関しては平等じゃないかと。一緒に列で並んで頂いてはどうか、特別扱いする必要は無いんじゃないかと言う事ですよ。はいどうぞ。

挙手者：指定席の列なんですけども、これ、どこにでもどこのチームもある問題です。アントラーズとか仙台とかは、指定席に入る指定席専用の入口がありまして、自由席には走り込む事が出来ない様になっています。コンサドーレの入場、確か販売する時にその専用の列に並べますっていうのが売りでしたよね、SSのシートとかそのチケット買う人の。確か記載されていたんじゃないかなと思いますけども。過去にそういう言葉があった様な気がします。多分、既に指定席を買った方は去年も専用の入口があったんだから今年もあるだろうと言う事で買っちゃった人もいると思います。そういう人達が、今更こう言われても思ってた事と違うって言う人もいると思います。ただ、やはりB自由席というのはB自由席のチケットを買った人のためにあるものであって、指定席の人達は指定席を既に確保されている訳ですから、そこの人達がB自由席に走り込むというのは、これはルール違反ですね。基本的にはやはりもう走り込めない様に開場から30分位はチケット確認をせざるを得ないとか、結局お金のかかる所に落ち着くのかな、手間のかかる所に落ち着かざるを得ないのかなって。意見として申し上げたいと思います。以上です。

司会：はい、ありがとうございます。今はSSを持っているとドームの全ての所に入って行けるって事ですか？SもBも、どこも。(会場から複数回答)はい、Bのエリアだけがチケット見せてくださいって言われれないと言う事なんですね。(会場から発言あり)そういう事です。そうなれば、それこそ今意見があった様に、Sのチケットを持っていたりSSチケットを持ってBに入ろうとする方は入れない様な、チケット確認みたいなエリアがいるって事です。(再び会場から発言あり)大変な人と時間と手間がかかる話になって来ますね、今度。どちらにしてもこの場では結論出ない事だと思いますので、石井部長、そういう問題があるそうです。先程もありましたけど、去年と同じでそういう思惑でチケット買っちゃっている人もいますので、今更ある日突然っていう事にも出来ないのかもわかりませんが、将来的にその辺も改善出来る様な方向でご検討頂けますでしょうか。

石井：了解しました。ただ、何年前ですかね。それ、やったんですよ。

発言者：そうですね。その晩、当日に廃止しますって前にやられて、それでブーイング受けたんだと思うんですけど。

石井：ええ、それです。それを今言おうとしたんですけど。この場でそういう問題が出たっていう事を経緯経過の中で、今年一年私共の方で来年に向けてどうするかという事を、齋藤さん窓口になって頂いて宜しいかと思いますが、キャッチボールさせて頂ければなと気はします。

司会：分かりました。来年のチケット販売に向けて御検討頂けるという事ですので議事録にも残しといて頂いて、その件に関してもし御意見があれば楽援(コンサ)のMLに入れて頂ければ、HFCさんにお伝えします。はいどうぞ。

拳手者：という事は、今年はSSを持って入っても、それは対応しないという結論、方向っていう事なんでしょうか？

司会：現時点ではそういう事ですね。

質問者：出来ないという。

司会：はい。

質問者：それを前提に、例えばSなりSSのチケットを買ったんだという方がいらしてもそれはしょうがないという。

司会：えー。

質問者：という様に、聞いてもしょうがないですけど。

司会：非常に法の抜け穴みたいなもんですけど。

質問者：あー、そういうことですか。

司会：ただ、後はサポーターの良識に。当日その場で、おまえSSのチケット買って、こうやってここ取ったらどうのこうのとかって喧嘩腰ではなくて、やはりそれはマズイですねというお話し合いをして頂く中で、そういう風にして入って来られるSSのチケットを持ったサポーターにも御理解を頂くという作業を。現場主義じゃないですけど、現場でちょっ

とお手数でしょうけどもやって頂くと。悪い風に考えたらもう全てトラブルのネタになりますのでね。その方はその方なりの思いがあったんだと思うんですよ。自分達がいつも見る様な場所に入りたい。でもお仕事の都合でどうしても並びには参加できない。例えばそういった限定グッズも買いたい。最後に金銭的な負担でその辺の問題を解決しようという結論をご本人、出したのかもわからないですよ。我々より確かにチームに対してお金を払ってる訳ですから。でもまあ、そういうルールの抜け道みたいな所についてやられている訳ですけども、それは一所懸命並ばれているサポーターに対してちょっと失礼でしょ？と言う様なお話を、現地でしてみte頂いてはどうですかね。とりあえず今年はその辺で逃げて頂けませんか。いいですか？

質問者：ええ、どちらにしてもシーズンも始まりますんで、そういう意味で物理的なものも発生しますから、費用が掛からない範囲ですとかホームページで啓蒙するとか、HFCとして何らかの形で、そういう事が減るような方向で検討して頂きたいなという様に思うんですけど、よろしいでしょうか。

司会：はい、ホームページ上で、それを示唆するようなものが出せるのであれば。逆に出す事によって、それを助長するって事もあるんですよ。そんないいやり方あんのかと、気づいてなかった人もやるとかね。それは逆にちょっとまずいんで、その辺のニュアンスもお汲み取り頂いて、自分のご購入券種以外の座席にお入りになる事はご遠慮くださいみたいな、そういうなお願い出来ますでしょうか。

挙手者：はい。

司会：はいどうぞ。ユニ着た方、真ん中の。

挙手者：言いつばなしになっちゃいますけども、現実起きてる問題として。お客さんがあんまり入ってない時だと、今の方法取られてもまあ、いいって事じゃないんですが、現実指定席の、その人が買ったところが穴あっちゃうんですね。なおかつB自由買った人がBに入りきれないとか。招待券の問題もありますよね、夢プランで買ったとか色々な面で。そういう方のためにも地下鉄の座席の膝送りじゃないんですけどモラルに今年は頼らざるを得ないと思うんですけど、実際にB買った人がBに入れないという。サッカーは野球と違って立ち見が出来ませんので。これは結構、お客さんがJ1になって増えてくれば、もっと問題が大きくなって来ると思います。言いつばなしですいません。

司会：はい、ありがとうございます。そういった意味で、HFCさんのホームページで、ご購入券種以外のお座席にお座りになる事はご遠慮くださiってiうな内容のものを出して

頂ければ助かります。はい、先程のもう一人の方。

拳手者：言いたい事言ってもらったんで。ボランティアやっているのと、3万人超えると大体もう自由席は膝送りしないと座れない状態になります。昨シーズンもラスト2試合に関しては、早い段階でB自由はホーム側も埋まってしまいましたよね。で、アウェイ側もかなり埋まって来てしまうと。そうすると膝送りして座席を取ろうとしても例えば家族連れの方来られて、子供も合わせて5人分席を確保したいと話が出てくる。まとまって中々席が取れなくて、一所懸命ボランティアスタッフが探します。探しますけど時間が掛かります。去年実際にその中で、怒って帰っちゃった人が何組かいらっしやいます。抗議の電話が、HFCさんの方に後から来ると。そういった現象が実際に起こってるんですね。違うチケットの席種の所に入れませんで事は、アナウンス等で散々言ってるんです。言っているけど、やっぱりやる人はやるんです。実際仰った通りで2万人切っている時は全然構わないんですよ。全然構わない。ただ3万人に近づいてくると、明らかに危ないなっていう雰囲気になって来て、もうどう探しても見つからない状態。その時問題になるのはクラスが違う所に入るのもそうなんですけど、もう一つは荷物で席取っちゃう人ですね。もう問題外だと僕は思うんですけど、そういう人やっぱりいます。誰か来るのかなと思う、試合始まるとやっぱり来ない。結構います。そういう人を見かけたら、知らない人でも空いてます？って言って作るくらいの事を、サポーター全体でやらないと、中々この問題は解決しないと思います。ボランティアスタッフも限りがありますから。席を探している黄色いビブスを見つけ、ここ二つ空いてるって教えて下さる方も一杯いらっしやって非常に助かるんですね。そういうのをもっと規模を広げてやらないと中々この問題解決しません。クラスの違う券種に入場するのを制限する為に、Bでも半券チェックをやったらどうかってお話ありました。これは実際にボランティアスタッフの会議でも出てきています。出てきてますが、今現在では人手がとてもじゃないけど足りません。ですから、もしそんな曲がった事がまかり通るのは許せないと、そういう正義心に溢れる方がいらっしやったら是非ボランティアスタッフに登録して頂いて。(会場拍手)今の倍の人数入れれば、もっと早く撤収出来るし、もっと早くお客さん案内出来るし、もっと良いサービスがお客さんに対して出来る。そうするとまた来てくれるお客さん、もっと増える。それこそ社長が言っていた25%ずつサポーターの数を、毎年増やしたいっていう動きのためには、やっぱりコアになる、核の部分の人数がどんどん増えて行かないとどうにもならないんで。コアって色んな種類があると思います。声を囁らしてサルトするのもコアだし、ボランティアスタッフとして実際に運営に携わるのもコアだと思います。こういった会を開いて下さるのもコアだと思います。色んな部分の、核の部分の枳を増やして行かないと、25%という数はかなり僕は厳しいと思ってるので。ほんとにこれはチームの問題でありますけど、サポーターが出来る唯一の、自分達の気持ちだけで出来る唯一の事です。ですから是非とも参加して頂きたいと思います。(会場拍手)

司会：はい、ありがとうございました。うちのサポーターって昔厚別ゴミだらけのゴール裏だったのが、今はゴミが一つも無くなりました。これは別に誰が呼び掛ける事無く始まって、その内にゴール裏でゴミを置いたまま買える事が恥ずかしいという意識が定着した結果だと思います。今の座席の問題も、お仲間がいて荷物を置いていて、後から仕事の関係で遅れて来るお仲間のために一席二席お取りになるという事は現実あると思います。ただ何かの理由でお仲間が来れなくなって席が空いてしまった場合、速やかに詰めるなり、例えば他の空いてる席と合わせて二席作ってあげる。自分達がちょっとずれて二席セットにしてあげて、後から来られるサポーターをその間に入れてあげるとか、そういうのを皆さん、少しずつやってみましょう。それによって少しはボランティアスタッフのお役に立てる部分はあると思います。確かに荷物を置いて場所を取るという事も正しいとも、いやいけないとも中々言えない。色んな微妙な問題があると思いますが、取った以上空かせるなど。その席は責任持って誰か座らせてくれと言うぐらいのそういう気持ちを持って。自分達の好き放題、まあとりあえず10人位来るだろうから10席取ろうや、何だか知らないけど試合直前に空いたから4席も5席も空いたと、こういうような非常識な場所の取り方ってのはやめましょう。その辺をもう一步、今の状態から前進させていってはどうでしょうか。声を掛けてここ空いてますよと言うのが恥ずかしければ、先程仰った様に黄色いビブスを着たCVSの方にごめんと、友達来ると思って取ってたんだけど空いちゃったと、申し訳無いという風に一声掛けて頂くだけでも違うと思いますので。そういう動きを今年は皆さん、やって行きませんか。どうですか。(会場拍手)はい、じゃお願いします。まずその辺からちょっと、小さな事ですけど始めていきましょう。お願い致します。後、他に無いですか。はい、どうぞ。

挙手者：HFCの方にお話したい事があるんですけど。今の席の話もそうなんですけど、ゴール裏の方でチケット全然チェックしてないんで他の券種の人が入れるっていうのが問題になるのであれば、ゴール裏だけ優先で入場出来る様にして頂きたいなと。それもシーズンパスだけ優先でやって頂きたいと。色々調べてみたんですけど、シーズンシート購入されてる方優先というのは結構他のチームではやられていて。J1だと半分以上の所がやってJ2でもやってる所ありました。一応資料作って来たんで後でお渡ししたいんですけど、見て頂いて検討頂きたいと思います。宜しくお願いします。

司会：はい、ありがとうございます。では資料、後でお渡ししてください、直接。それによってそういう選択肢や検討案件も出てくるかと思います。その他、ございませんか。無ければ予定より早いですが、早く終わって早く帰る分にはいいかと思いますので終了とさせていただきます。それでは、昨年この人がコールした事によって昇格出来て優勝も出来たと。(会場笑い&拍手)今年この人がコールするとJ1優勝しちゃうんじゃないかみたい

な。お願いします、海野君。

海野さん(以下海野):責任重大だね。

司会:マイクいらない?

海野:僕はマイクいらない。

司会:彼がコンサドーレって言いますので、ちゃちゃっちゃ、ちゃっちゃで、その後コンサドーレ3回。3回でやめましょう。そのかわりアウェイのゴール裏の様なテンションでガート始まってくださいね。それではお願いします。

海野:じゃああの、皆さん発声練習を。あー!

会場:あー!

海野:じゃ、やらさせていただきます。はい。

会場:はい。

海野:コンサドーレ!(ちゃちゃっちゃちゃっちゃ)

会場:コンサドーレコール3回

司会:はい、ありがとうございます。

海野:ありがとうございます。今年も宜しくお願いします。(会場拍手)

司会:どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。今年みんなで頑張って応援しましょう。ありがとうございました。(会場拍手)

(17:50終了。以上、敬称略)

漢字標記が不明な方のお名前は、カタカナ標記とさせていただきました。また、お名前自体が判別できない方は「質問者」「挙手者」等の標記にさせていただきます。ご了承ください。